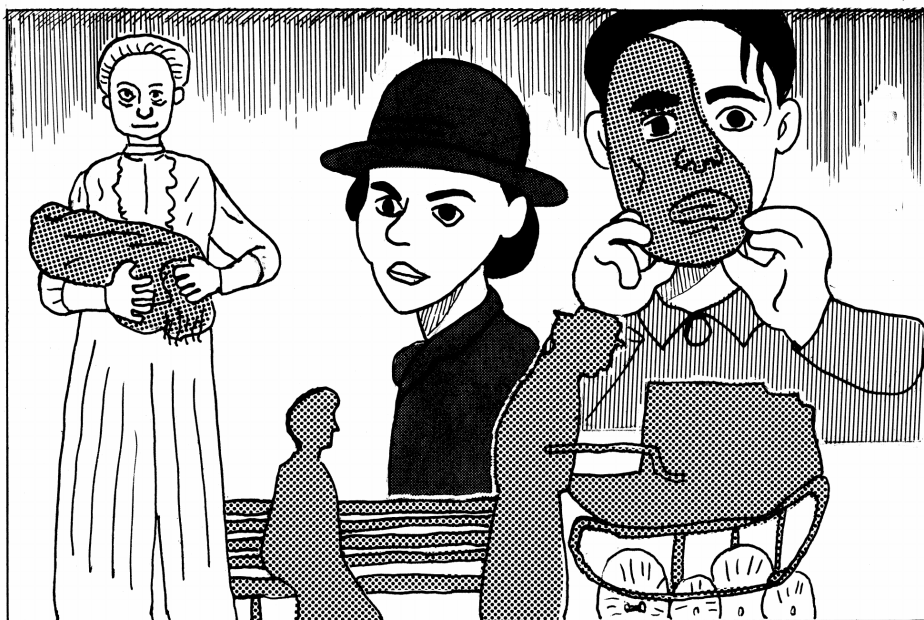




シネマ
マ
気球

第45号 200円

シネマ気球©

編集兼発行人 関田孝正
〒270-0107
千葉県船橋市西荒井 339-2
TEL 04 (7153) 1533
FAX 04 (7156) 7122

『ガール・ウィズ・ニードル』

赤ん坊の養子縁組を仲介、実は…

第一次大戦後のデンマーク。お針子のカロリーヌ（ビク・カルメン・ソネ）は兵隊に行った夫の帰りを待っていたが消息不明。縫製会社の工場長に見初められ、その子を身ごもる。夫がひよっこり帰還。顔半分に傷を負い仮面で覆っている。サーカス小屋でその傷ついた顔を見世物にしていた。カロリーヌは新しい男がいると告げて夫をいったん追い出してしまふ。子供ができて工場長夫人におさまってお屋敷で生活ができると夢見ていたが、工場長は母親のいいなりのどうしようもない男だった。捨てられてしまふ。お針子の職も失う。大衆浴場で縫製用の長い針を体に刺して子供を殺してしまおうとするが失敗。救ったのは砂糖菓子店の女主人ダウマ（トリース・デイルフオム）。困ったことがあったらおいでなさいと言われて別れる。身重な状態で肉体労働に従事しているときに産気づく。夫は赤ん坊との暮らしを望むが、カロリーヌは気が進まない。赤ん坊を養子縁組に出そうとダウマを頼る。ダウマは養子縁組を仲介して手数料を得ていた。カロリーヌはその砂糖菓子店で働き始め、養子縁組の仕

事に携わる。ダウマは小学生ぐらいの少女と男と住んでいた。少女は実の娘ではないようだ。男は性欲を満たすための存在だ。カロリーヌはダウマの求めで少女に乳を与える。養子縁組にする予定の赤ん坊と添い寝をしているときにカロリーヌに相手にされないことに不満をもった少女はなんと赤ん坊を殺そうとする。カロリーヌは、ある日ダウマが乳母車に赤ん坊を乗せて街にでかけてゆくのを追っていく。路地の奥の下水道の中に赤ん坊を殺して捨ててしまふ現場を見てしまふ。

貧しい現実。赤ん坊を育てられない母親たち、養子縁組に出すと偽って手数料をとり始末してしまふ女。ダウマは知的な雰囲気をもとっており、子どもを預けに来る人々に「正しいことをしました」とねぎらいの言葉をかける。犯罪が発覚する。警官隊が踏み込んできて、カロリーヌは窓から飛び降りる…。マグヌス・フォン・ホーレン監督作。デンマーク・ポーランド・スウェーデン合作。黒白。スタンダードサイズかと思いきや1・44対1とビスタサイズよりは小さい画面。（絵と文＝流漂介）

ドンデン返しの仕掛人M・ナイト・シヤマランは、 新作「トラップ」で蘇ったか。

―垣間見るヒッチコックへのリスペクト

(結末に触れていまずので、この作品を観てない方は、鑑賞後に読んでください。)

クリストファー・ノーランや、リドリー・スコット、デイヴィット・フィンチャー、クリント・イーストウッドらの新作なら(過去の実績により)ある程度の満足性や説得性があるので(モロ期待ハズレ!)ということにはならないだろう。つまり、私たちは、彼らの映画なら、ほぼ安心して観ることができるとくにイーストウッドは、このところ90歳を越える年齢を感じさせない作品を連発していて、その創作パワーに驚きさえ感じさせる。だが、これらの安定している作家たちに反して(ドンデン返しの仕掛人!)と称されるM・ナイト・シヤマランの映画に関しては、この理屈が通用しない。もっぱら、(当たり外れが多い作家!)とレッテルを貼られ、新作を

見たときは期待と不安を感じながらの鑑賞となってしまう。では、見なければいい、たかが映画だ。という意見もあるだろうが、そこ

は自分なりの作家シヤマランへの思い入れがあるからだろう。だから、作品ごとに大波小波が繰り返されるシヤマランの映画でも、簡単には無視できない。まさに正気ではない跳んだストーリーに、独特の不可解な雰囲気が漂う世界を作り上げていて、もしかすると存在すら否定されたものが、突如、明確な輪郭をもつて蘇るのではないかと、と迫ってくるものがあるのだ。時には、暖簾に腕押しのような感もあるが、困ったことに裏切られても次回作を期待してしまうことになる。それは、おそらく『シックス・センス』(1999)のラスト、数十秒で見せた鮮やかな仕掛けが、強く脳内に残っているからだろう。(どんでん返し)の醍醐味が見事に決まった時のシヤマランは手が

つけられない。平たく言ってしまうと、シヤマランは人を驚かせようとして、映画を作っている。おそらく、彼は、この一点に絞って

作家生命を賭けているのではない。映画は芸術性や社会性だけではなく、シンプルな娯楽性も大切な成立要因の一つになっているのではない。彼のショッカー演出は、尊敬してやまないアルフレッド・ヒッチコックの恐怖のシヤワー・シーン(『サイコ』(1960))や、あこがれているというステイヴン・スピルバーグのなかなかサメの姿を出さない抑えたサスペンス演出(『ジョーズ』(1975))などをお手本にしているのかもしれない。が、観客が入らずコケが多い作家に、無条件で出資するプロデューサーはいないだろう。そのせいか、最近のシヤマランはファミリー総出で映画作りに挑んでいる。今回の『トラップ』(2024)の歌手役には自分の娘(サレ

門馬徳行

カ・シヤマラン)を起用、さらに別の娘(イシヤナ・シヤマラン)には『ザ・ウォッチャーズ』(2024)の監督をさせている。『トラップ』の配給はワーナーでも、制作は自己資金で賄っている。当然、資金繰りはきびしく、自宅を抵当に入れての映画作りが続いているとか。この辺、一般的なインディ作品と何ら変わらないスタンスだろう。つまり、どんなに批判されようが作りたいものを作る、という強い信念と家族ぐるみのバックアップがなかったら、20作に迫る監督業はつとまらないだろう。イーストウッドの新作も、アメリカでは、一部の劇場でしか公開されずにいきなり配信され、収益優先のハリウッドの本質が垣間見られた感じがする(日本では即配信公開に)。いかに良心的な作品でも、客が入りそうもない映画には手を出さない、というスタンス(日本も同じか)がはっきりと浮き彫り

にされた感がある。

○

近年公開の『オールド』（2021）は薬品メーカーの恐ろしい新薬臨床実験がテーマ。コロナ過での撮影で閉塞感が漂って、いつものシヤマランとは異なる雰囲気にも包まれている。彼が老いへの恐れを描いた、という指摘もあながち外れてはいないようだ。『ノック 終末の訪問者』（2023）も、「なぜ? どうして?」と、突然始まる不条理ドラマに聖書がからみかなり重い雰囲気作品になっている。結局、崇高な犠牲者によって人類は救われるのだが、定番のオチや伏線は見当たらない。この2作を見た限りでは、シヤマラン〈絶好調!〉とは言えないだろう。完成度が高く、それなりの評価を得ている『シックス・センス』『サイン』（2002）、『アンブレイカブル』（2000）、『ヴィジット』（2015）などの作品には、やや及ばないような気がする。

○

さて、シヤマランの新作『トラップ』は、連続殺人鬼ブッチャーに罠をかけて、捕まえようとするFBIと、なんとか脱出しようとするシリアルキラーとのせめぎあ

いを描いたサスペンスだ。犯人を演じたジョシュ・ハートネットの好演もあり、開巻から結末にいたるまで緊迫感が張り詰めていて目が離せない。主人公は、自分の中にもうひとりの怪物が棲んでいる二重人格者。シヤマランは、今までに多重人格をテーマにした『アンブレカブル』（2000）、『スプリット』（2017）や『ミスター・ガラス』（2019）を撮っている。〈アンブレイカブル3部作〉として総括している。彼自身の中でも、最も興味あるテーマのひとつなのだろう。今回は、ブッチャーの殺人鬼と普通の父親でありたいというふたつの人格の葛藤（ハートネットの顔のアップが多いのに注目）にも重点がおかれている。犯人は、どうやら厳しかった母親の虐待がトラウマになっているようだ。だから、時々、幻想としての母親が画面にでてくる。母親からの呪縛、このあたり、あのマザコンぽいヒッチコックの雰囲気がありありで興味深い。ストーリー、カメラワーク、さらにヘイリー・ミルズが演じるFBIのやり手女性プロファイラーが時々画面に出てきて、母親との精神的連鎖を匂わすあたりもヒッチもどきの世界

になっている。後半、歌手が事件解決に乗り出し、さらに娘、妻などを巻き込み私たちの予想を軽く裏切っていく展開を見せる。犯人は娘のためにコンサートに連れて行ったわけだが、もしものことを考えて、奥の手を打っておくあたり、用意周到な殺人鬼の本質を忘れてはいない。この辺も二つの人格、良き父親の顔とサイコな切り裂き魔の顔が念押しされる。ラストの軽いオチもシヤマランにとっては手慣れた感じがする。逮捕はされたが、結局、彼は脱走を図るだろう。だが、あの怖い母親のようなプロファイラーからは、逃げ切れないような気がする。作品全体を通して、出てくる登場人物が、思わず「ええっ!」っていう意外な行動をとるシーンもあったが、そこが唐突感満載のシヤマラン・ワールドなのであり、映画の流れづくりの許容範囲とみようではないか。終盤、犯人が簡単に手錠を外すラストシーンを見て、同じような軽いオチを連発した恐怖映画の帝王ジョン・カーペンター『遊星からの物体X』（1982）等）を連想してしまった。

『トラップ』は、予算が、3000万ドル。かなりの資金を使っ

ている。だからか、大勢のエキストラ観客が密集するライブ会場の様子が良く撮れていた（恒例の監督のカメオ出演もある）。終末、ブッチャーの妻のといった思いもよらぬ行動が犯人を追い込み、じりじりとサスペンスが盛り上がる。服を脱ぎ、凶器をテーブルにおくブッチャーの狂気が画面に漂う。この静かに恐怖感が忍び寄ってくる演出は、まさにサスペンスの師匠ヒッチコックへのリスペクトなのだろう。

本作で、絶えず張り詰める緊迫感、予想不能の素早い展開を指摘したシヤマランは、〈ドンデン返し〉だけが、わたしではないよ、という宣言をしたのかもしれない。

○

ある数学者が言っていたが、およそ人口の10万人から20万人に1人くらいの確率で、性格の歪んだ異常者が出てくる可能性があると思うだ。

最後にニンマリしたブッチャーを見て、そのことが急に頭を走り、思わず背筋がゾゾツとするのを感じた。

(2025・5・14)

外国映画の森へ4

森田 洋一

クラシック・フランス映画

「ファントマ」(1947)

サイレントの時代から、作られていた犯罪映画です。1945年のトーキーバージョンしました。

マルセル・エラン主演、「花咲ける騎士道」(1952)「レイ・ブラッス」(1949)などに出演した俳優さん。シモーヌ・シニョレがファントマの娘役で出演。犯罪用の殺人光線、実験室など近未来的な要素もあります。ラストのカタコンブでの銃撃戦、みどころありました、「第三の男」(1949)を想起させるような感じ・・・。

ジャン・マレー、ミレーヌ・ドモンジョのファントマシリーズの方が、一般的には知られています。

「われわれはみな暗殺者」(1952)

アンドレ・カイヤットの代表作のひとつ。「裁きは終わりぬ」は陪審員制度の矛盾、「眼には眼を」は復讐、「洪水の前」は少年犯罪と大人の都合、といった社会に対する強烈な批判を描いた作品が多い。「われわれはみな暗殺者」は前半が対独協力の中のレジスタンス活動、後半が留置場での死刑を待つ人たち、といった展開で押しと引きの要素を上手に演出している。神父、弁護士、医師、看守などそれぞれの立場でも、自らの信念に従う、同調圧力に屈して何とかやり過ぐす、といった人物が描かれている。ラストは、視聴者に判断をゆだねるといった形で、内容的に重たく、考えさせられる作品。

「幻の馬」(1946)

「パルムの僧院」(1948)「花咲ける騎士道」(1952)のクリスチャン・ジャックが、田舎町の愛憎劇を描いた作品。一頭の馬が物語の鍵となる存在、教訓が悪事は自分に返ってくる。「パルムの僧院」でジェラルド・フィリップの相手役になるルネ・フォールがヒロインを演じている。劇中エピソード、つがいの鳥、その片方を犠牲にして、血を利用、病気を治癒させる、「宮廷料理人ヴァテール」(2000)でも同様の場面があった。

「アリバイ」(1937)

エリツヒ・フォン・シュトロハイム(「大いなる幻影」1937)、アルベール・プレジャン(「巴里の屋根の下」(1930)、「レイ・ジューヴェ」(「旅路の果て」(1936)「どん底」(1936))の共演でユニークな組合せ、それぞれの個性が活かされている。内容は、殺人事件の容疑を中心にサスペンスと恋愛の要素が入った展開。登場シーンから、役柄がわかるまで意外性があったりする。エリツヒ・フォン・シュトロハイムが始終紳士的なふるまいをする中、物語中盤で大きな声を出す、この辺りが演技の完璧さを求めていることが垣間見える。最後まで目が離せない・・・。

「消えた死体」(1948)

陽気なドン・カミロのフェルナンドルがユーモラスな演技をみせてくれる。遺産相続には死亡確認が必要と、死体を探し回る。ラスト

トも、結構笑える感じ。ストーリーや展開は全く異なるものの、コーエン兄弟監督、トム・ハンクス主演「レディー・キラーズ」にも影響を与えているように感じた。

「真夜中まで」(1949)

レイ・ジューヴェが刑事役。殺人事件の被害者と瓜二つであったため、被害者になりすまして、事件の真相にせまるといった展開。終盤からラストまでは、刑事の職務と個人の感情が入り乱れながらも、演技力を発揮して、フランス映画っぽい結末に・・・。

「マルセイユの一夜」(1947)

ジャン・ピエール・オーモン(「北ホテル」(1949)が代表作、ハリウッドの「四時の悪魔」(1961)「大反撃」(1969)の脇役)とマリア・モンテス(ドミニカ出身、「アラビアン・ナイト」(1942)が代表作)、主演当時、本当の夫婦。はじまりから、ハリウッド映画の「踊る紐育」の雰囲気が出た。

展開としては、フランス映画独特の印象。どことなく、「望郷」に近いような。望郷の原題が、「Pépé Le Moko」、本作品の原題が、「Hans

「le Marin」(作品中寄港地に取り残されて困った主人公が、ジプシーキャンプでもらった偽名)と共通点がある。

「六人の最後の者」(1948)

我らの仲間が、宝くじに当選した者たちの友情を描いているのに対して、本作品は友情を交えた殺人ミステリー。「密告」(1943)、「犯罪河岸」(1947)、「情婦マノン」(1948)、「恐怖の報酬」(1952)のアンリ・ジョルジュ・クルーゾーがスタッフに加わっている。謎解きの展開やカメラワークが素晴らしい秀作。

「フロウ氏の犯罪」(1935)

「殺人者」(1946)「暗い鏡」(1946)「らせん階段」(1945)のロバート・シオドマク監督。ルイ・ジュールヴェがとぼけた大泥棒の役を演じる。恋愛ドタバタ劇の印象で、ユーモアたっぷりの作品。

クラシック・アメリカ映画

「愛の立候補宣言」(1948)

スペンサー・トレイシーとキャサリン・ヘップバーンのコンビが

主演の作品。大統領に立候補する、投票してくれる代理人と一般の人々との考えの違い、取り巻きにいつの間にか考えを変えられてしまう共和党と民主党の違いは、など、現代にも通じるテーマが何気に描かれています。

監督は、フランク・キャプラ、「我が家の楽園」(1938)「スミス都へ行く」(1939)「群衆」(1941)といった政治の舞台裏を描くのが上手な監督さん。

アドルフ・マンジュー、「オーケストラの少女」(1937)の俳優さん、アンジェラ・ランズベリー「ジェシカおばさんの事件簿」(1997・テレビ映画)や「クリスタル殺人事件」(1980)のミス・マーブル役の女優さんが作品の味を出しています。

「夜霧の港」(1942)

原題が「Moon Pie」、第二次大戦中、ジャン・ギャバンが亡命先のアメリカで出演した作品。共演にアイダ・ルピノ、クロード・レインズ。ボボという主人公の名前。「望郷」(1937)のペペ、を想起させる。「望郷」は、「カスバの恋」(1938)として、シャルル・ボワイエ主演でハリウッドにて、

リメイク。シャルル・ボワイエ、ジャン・ギャバンとも英語が堪能に感じる。

アイダ・ルピノは、監督としても活躍。「ハイ・シエラ」(1941)「夜までドライブ」(1940)「危険な場所」(1952)など、濃い印象の演技が特徴的。ただ、本作品では、引きの演技を上手に演じているように思えた。クロード・レインズも名脇役といった感じ。

最近の映画

「ブルー 君は大丈夫」

原題は、「IF」、子どもの頃の想像の友だちのこと。「君は大丈夫」、途中ででてくるセリフです。夢を追う大切さを描くピュアな作品。公開日翌日の土曜日に字幕でみたら、劇場の観客が私を含めて二人、良質な作品だけに残念。「デッドブルー」のライアン・レイノルズがいい役どころ。ルイス・ゴセットジュニアの遺作となりました。「愛と青春の旅立ち」で、鬼教官の役をやった俳優さん、本作では、声の出演。また、劇中に流れる白黒の映画、ジェイムズ・スチュワートの「ハーヴェイ」(1950)

という作品です。

「ONE LIFE 奇跡が繋いだ6000の命」

アンソニー・ホプキンス主演のイギリス版「シンドラーのリスト」といった感じの実話。ドイツがポーランド侵攻前に、チェコスロバキアから、子どもたちをイギリスに逃がす話。ヘレナ・ボナム・カーターが若き日の主人公の母親役。正しいと思うことはやりなさい、といったテーマを正面から描いています。劇場の観客が私含めて、三人。内容がよいだけにもったいない・・・。

「スピーク・ノー・イブ 異常な家族」

「胸騒ぎ」をハリウッドがリメイク。オリジナルとは展開が異なります。ジェームズ・マカヴォイ(X・M・E・Nシリーズ)、マッケンジー・デビス(ターミネーター4)。主要な登場人物が6人、イタリヤから田舎の一軒家と、コンパクトな感じ。後半からラストは、結構、お決まりの展開か、それとも、絶望的なか眼が離せなかった。詳細はみてのお楽しみ・・・。

「ボレロ 永遠の旋律」

片桐 公男

24年8月半ば、表に出るのも億劫な猛暑日の午後、意を決して映画館へ歩を運びました。フランスの大作作曲家モリス・ラヴェルの半生を描いた映画でしたのでぜひ観たいと思っていたからです。到着した映画館は、お盆休みとあって子ども連れで溢れていました。チケットを買って入館すると、いつもは一列に数人しかいない席は大方埋まるという予想外の盛況でした。

ボレロの曲は「タン、タタタッタ、タン、タタタッタ」と言うスネアドラムのピアニッシモの4分の3拍子の単調なリズムが繰

り返し演奏され、そのリズムに乗ってフルートやクラリネットなど木管楽器が哀愁的なメロディーを奏で、その後何回も同じリズムでサククス&トランペットなどの管楽器がその美しいメロディーを17回も演奏します。楽器を変えたり、強弱を変えることにより他の作曲家に真似できない曲として完成させたのです。

これまでもボレロの曲を取り上げてつくられた映画は近年では水谷豊主演の「太陽とボレロ」がありました。作曲家ラヴェルそのものを描いた映画は初めてではないかと思っています。

映画は雨が降る足下が悪い中を歩く女性、イダ・ルビンシュタインが鋸形屋根の工場で待ち受けるラヴェルと落ち合う場面から始まりました。そこは回転する機械の単調な繰り返しの音は、リズムというより「騒音」と形容した方がよい感じですね。私が見たところ機械の機械の原動機のような感じ。この機械音にラヴェルは曲のヒントを得たのでしょうか。

映画の舞台となったのは1928年豪華なパリが舞台でした。スランプに苦しむラヴェルは、ロシア出身のダンサーイダ・ルビンシ

ュタインからバレエ曲の作曲を頼まれます。彼は失った閃きを追いかけるかのように自身の過去に想いを馳せますが曲を書くことはできず苦悩します。彼の神経質な性格が遺憾なく描かれる場面です。

映画は彼を取り巻くパリの社交界や女性たちとの交際が描かれていきますが作曲が進まない彼にはそうした女性たちとの関係もうまくいきません。パリを離れて海が見える風光明媚のリゾート地に移り静かな環境に身を置き作曲に専念しようとはしますが、ここでもなかなかペンは進みません。

そこでアメリカに渡りニューヨーク、ボストン、シカゴなど各都市でピアノ演奏会を開く傍らアメリカ人作曲家ガーシュインやジャズとも出会いそのリズムや即興性から一つのヒントを受けたりしますが、それでもイメージが湧かず書いた譜面を投げ捨てたり暖炉にくべたりして苦悩し続けます。

作曲のイメージが湧かない中、依頼者のイダが来て「どこまで作曲が進んでいるのか」問います。それに対しラヴェルは「ほぼ出来上がっている」と応えます。イダは「ではその一部を聴かせて欲しい」と食い下がりますが、ラヴェ

ルは「それはできない」と何とか逃げ切ります。

苦悩と試行錯誤の日々を経てイメージが湧きついにピアノの前に座り左手でタン、タタタッタとリズムを刻みながら右手でメロディーを弾きながら譜面を直していきます、やがて「ボレロ」を完成させます。しかし、完成後も彼の気持ちには割り切れないものが残ります。

場面は、映画の始めに映し出されたノコギリ形屋根の工場にイダを呼び出し完成した譜面を彼女に渡します。イダはラヴェルの苦悩など知るよしもなく喜んで持ち帰ります。

場面はバリオペラ座の演奏会に替わりイダは赤く薄いエロチックな衣装でボレロの3拍子のリズムに合わせて腰を振りセクシーな踊りを演じます。それを観ていたラヴェルは、自分が意図したイメージと違う振付にショックを受け席を立ちます。隣の席にいたミシアはラヴェルを追い彼を探します。劇場外でタバコを吸っていた彼を座席に戻します。

ラヴェルはダンスが終わると大喝采に包まれた舞台上のイダを席から見ます。イダは拍手を送る観

客たちにラヴェルの席を指さし、そちらに向かう促します。作曲家ラヴェルにも観客はスタンディングオベーションで応えます。これを受けてラヴェルは、「この曲にはエロティシズムの部分もあるかも知れない」と自分を納得させようとしますが…。

映画の最後は、神経を侵されたラヴェルがベッドに横たわる場面になります。ラストシーンは、壁も天井も白一色のホールでオーケストラメンバーを従え棒を振るラベルがボレロを演奏します。ここへ全身黒い衣装で身を包んだ男性ダンサーが演奏に合わせて力強く跳ねまわり踊ります。それを見て私は、ラヴェルが曲に込めた「本

当の踊り」を夢の中で実現して見せたのではないかな？と考えました。冒頭に書いたように、この曲は単調なリズムに乗ってメロディが繰り返されますが作曲したラヴェルの意図はもっと深いものがあるのかも知れません。

ラヴェル役はラファエル・ベルソナ、ラヴェルの生涯にわたるミューズとなったミシアをドリア・デリエ、ダンサーのイダをバリ・パールが演じました。

ボレロの演奏はブリュッセル交響楽団。ヨーロッパを代表するピアニストの一人であるアレクサンドル・タローがラヴェルやショパンの名曲の数々を演奏して画面を引き立て盛り上げました。

主演のラヴェル役のラファエル・ベルソナは、神経質なラヴェルを見事にこなし、その好演が光りました。

私がラヴェルについて印象に残る曲は、ロシア民族派の一人ムソルグスキーの組曲「展覧会の絵」です。この曲をオーケストラ用に編曲した作曲家は、ラヴェル以外にもグリーグなど名立たる作曲家がいますが、今日演奏されるのはラヴェル編曲がほとんどです。

映画の余韻がまだ私の頭に残る翌日、愛器のクラリネットを取り出し映画の画面を思い出しながらボレロを演奏してみました。作曲に賭けたラヴェルの苦悩は、曲からは全く感じられませんでした。

曲の後半にジャズのリズムの特長であるシンコペーションが用いられていることが分かり、アメリカで作曲家ガーシュインやジャズと遭遇してヒントを得たのではないかと多少感じるところがありました。

1875年、フランス南西部で生まれたラヴェルは、今年生誕150年に当たります。父親が音楽に造詣が深く、息子に音楽を勧めて名門パリ音楽院に学びました。1914年から始まった第一次世界大戦では、弾薬などを前線に運ぶトラック部隊に所属し危険な作業に従事したり、母親との別れなど辛い体験もしました。

写真&文…片桐公男

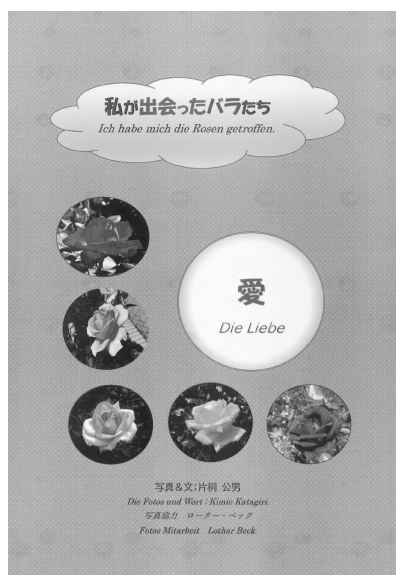
写真協力…ローター・ベック

私が出会ったバラたち

好評発売中！

B5判オールカラー48ページ
定価…1,200円(送料別)
お申込み片桐公男 ☎ 04(7153)3389

住所・千葉県流山市平方108-14



ゆるい映画好き

パート5

中川恵彦

※私個人の評価 星5つで満点

今回で5回目になります。

2024年6月以降の劇場で観た作品の紹介です。

6/3 「からかい上手の高木さん」

主題歌Aimerさんの「遙か」が流れると少し涙が出てきました。ほのぼのとした恋愛映画でした。

星3・8

6/10 「あんのこ」

実話が元の映画で色々な不運が重なってどん底から更生しかけたけど結局自殺してしまう悲しい話でした。

河合優実目当てで観ましたが：

星3・5

6/17 「ディア・ファミリー」

大泉洋さん主演の人工心臓を作ろうとしたけど作れず、結果カテールを作るという感動作でした。福本莉子のかわいさと姉妹愛が良くて涙しました。

星4・2

6/24 「映画 おいハンサム!!」

2022年からドラマが始まり、2024年にシーズン2があり、その後の映画です。

期待通りの吉田鋼太郎さんのハンサムさが映画でも炸裂していました！

星4・4

7/3 「言えない秘密」

2007年の同名台湾映画が原案だそうです。

ベタなファンタジー映画でしたが、古川琴音さんと京本大我さんの演技は良かった。

西田尚美さんの母親役は恐かったです！

星3・9

6/28 「ラストマイル」

ドラマ、アンナチュラルとMIU404のメンバーが出ていましたが、別に出ていなくてもかなり面白い作品でした。

満島ひかりさんの演技力は凄いです！

星4・0

9/9 「ナミビアの砂漠」

完全に河合優実さん目当てで行きました。

私的にかなり意味不明なシーンが多く、共感できない残念な作品でした。

星2・8

9/30 「傲慢と善良」

奈緒さん目当ての映画、現実味がなくあまり面白くなかったけど、ハッピーエンドでなによりでした。

星3・1

10/7 「ベイビーわるきゅーれ ナイスデイズ」

2021年1作目「ベイビーわるきゅーれ」、2023年2作目「ベイビーわるきゅーれ2」

「ベイビーわるきゅーれエブリデイ!」、3作目「ベイビーわるきゅーれナイスデイズ」。

高石あかりさん目当てですが、

彩織さん、相手適役に池松壮亮さんが加わって凄くアクションでした。

作品ごとに俳優が豪華になってます！

星4・1

10/14 「敗れざる者」

星3・8

11/18 「生き続ける者」

1ヶ月あけて鑑賞しましたが、期待外れな感じでした。「室井さん死ぬんかい!」って感じでした。ラストシーンで青島刑事が出てきたので今後に期待です！

星3・9

11/4 「アイミタガイ」

相身互いと書き、お互いに助け合うこと、持ちつ持たれつの関係の意味する言葉。黒木華さん演じる梓の彼氏役の中村蒼さんの演技が好きでした。こんな偶然ないでしょって事が沢山ありますが、私はこんな映画が大好きです！

星4・4

12/2 「正体」

WOWOWの連続ドラマW「正体」を2022年に観ていました。全4話でしたが、映画では私にとっては余計な話が端折られていて2時間ですっきりした内容でよい作品だと思いました。吉岡里帆さん良かった。

星4・4

12/18 「はたらく細胞」

結構期待していましたがちゃんと眠くなってしまった。阿部サダオさんと芦田愛菜さんの演技は良

ごまめ書房の映画の本

侏儒の映画館

久保嘉之・著。人斬り五郎のジレンマ―我が愛しの渡哲也―、映画化された江戸川乱歩の作品、バットマン論―あるスーパーヒーローのプロフィール―、リドリー・スコットの映画、など。600ページ。
「本書は、厳密には映画の評論集ではありません。私が観て感銘を受けた映画、とても面白かった映画、興味深いと思えた映画などを綴った、映画案内です」(あとがきより)。
2200円＋税

昭和映画屋渡世

坊っちゃんプロデューサー奮闘記

斎藤次男・著。『切腹』『男はつらいよ』製作の熱血漢が生み出した、歴史に埋もれた大衆娯楽映画の数々――。現場に飛び散る汗、涙！ 1960年代の映画屋たちの熱気が甦る。映画評論家、書評等絶賛！
定価 2200円＋税

おしゃべり映画館

N雄とN子の21世紀マイベストシネマ
門馬徳行、岩館範子・共著。映画対談集。
147本をシネマフリークが語りつくす。
定価 2000円＋税

映画館をはしごして

小泉 敦・著。暗闇の空間での筆者と映画作家の“対決”！ 観たものを言葉でとことん読み解く。
定価 1900円＋税

人生は映画とともに

今市文明・著。青春時代の映画を語り、ヨーロッパのロケ地を旅し、スターを語る。
定価 1900円＋税

観る・書く・撮る

シネマフリークここにあり

門馬徳行・著。フツーのおやじのヘンに熱っぽい映画評論プラス自作シナリオ集。
定価 2800円＋税

ばってん映画論

久保嘉之・著。ジェームズ・ボンドと俺が初めて出会ったとは、忘れもせんクリクリ坊主の中学2年の秋やったばいー。注目の娯楽映画評論集！
定価 2000円＋税

●自費出版のご用命も承っております。安く、丁寧に仕上げます。お気軽にご相談ください。

ごまめ書房
〒270-0107

千葉県流山市西深井 339-2
電話 04-7156-7121
FAX 04-7156-7122

gomame.co.jp

かったです。

星3・8

2/3 「遺書公開」

高石あかりさん目当てで観ました・若手実力派達の演技が凄かったです！

星3・8

2/17 「ファーストキス」

タイムトラベル物で、若い時の松たか子さんが本当に若く見えまして。作品としては好きな物でした。

星3・8

2/24 「トリリオンゲーム」

2023年7月にドラマが放送されてからの劇場版です。吉川晃司が良い味だしています。スカッと楽しい作品でした。

星3・6

3/3 「知らないカノジョ」

劇中のmiletさんの歌は本当に良かった。演技もとても上手！ ハッピーエンドなのも良かったです！

星3・9

3/24 「少年と犬」

高橋文哉さんって演技上手だって最近思っています。朝ドラ「あんぱん」での高橋さんの演技を観ています。

ファンタジー映画でした。犬の演技も良い！

星3・9

4/2 「悪い夏」

原作は読んでいませんが、聞くところによると映画とは違ってかなりバッドエンドのようです。映画ではハッピーエンドでした。生活保護って…？

星3・7

4/9 「おいしくて泣くとき」

当真あみさん目当てで行きました。安田顕さんの父親役がとても良かったです。バター焼きうどんおいしそうでした。

星3・7

4/14 「ゴーストキラー」

高石あかりさん目当てです。高石あかりさんの初の単独主演映画です。アクションがすばらしかったです。スッキリする映画でした。

星3・9

4/28 「名探偵コナン 零の魔像」

今回は小五郎のおっちゃんがかっこ良すぎる！ 私的に28作品中2番目に面白い作品だと思いました。

星4・6

5/2 「花まんま」

鈴木亮平さん良い、有村架純さんも良い。ハートフルなファンタジー映画、酒向芳さんのやせけけ方も凄かったです。

星4・3

5/26 「岸辺露伴は動かない 懺悔室」

観て感じたのは作品としては良く出来ているが、観ている途中で私は荒木飛呂彦さんの作品はあまり好きではないことに気づきました。

星3・2

今年は25作品も観ました。6月からも楽しみな作品が沢山です。

× × ×

「愛しい人から最後の手紙」 考察

堀江広子

古いラブレター

2021年に製作されたイギリスの恋愛映画である。ロンドン・クロニクルの記者として現代に生きるエリーは、伝説の女性記者メアリー・エレンの記事を担当することになり、調べている時に、かなり古いラブレターを資料の中に見つけその情熱的な文面に興味を抱いた。日の当たらぬ資料室にはローリーという男性が保管係として新しく着任していた。彼の協力を得て調べていくうちに手紙の主が、1965年にジャーナリストとして活躍していたアンソニーとブートで宛先が人妻であるジェ



ニファーであることが分かった。さあ、ここから、過去と現在の映像が交互に映し出されていき、過去の男女のラブレターを読んでいくうちにエリーの生き方にも変化をもたらしていく。失恋の痛手から、刹那的な性愛に身をやつしているエリーは、彼らの禁断の恋の結末を知りたくて、没頭していく。

ジェニファーとアンソニー（ブート）

1965年、多忙な実業家の夫との間がしつくりいついていないジェニファーは、フリージャーナリストと出会い、真実の愛に目覚め

家を出る決意をする。待ち合わせの駅に向かう途中に車の事故で記憶を失う。結局二人は何十年もの間、すれ違いや誤解などで一緒になれなかった。半世紀以上も別々に暮らしていた男と女を、エリーが再び会わせる。

新鮮な1965年の流行曲

この甘々な恋愛物語に特段感動したわけではないが、印象的だったのは、昔流行った洋楽が随所に使われていることだった。筆者は1965年当時、十四歳のまだ恋知らずの純情(?)な中学生。町に二つしかない映画館の一つが同級生の家で、親しかったこともあり、「ローマの休日」のオードリー・ヘプバーンのポスターを他の友人たちとじゃんけんで貰ったりする無邪気で楽しい中学生生活を送っていた。そんな時代を懐かしく思い出させてくれた。

ジェニファーが夫とスポーツカーで、避暑地にある彼らの別荘に向かう時に流れていた曲にまず痺れた。フランク・シナトラの娘、ナンシー・シナトラとリー・ヘイズルウッドが歌う「サマーワイン」である。当時の自分がこの曲を知っていたとは思えないが、いつか

どこかで聴いていたように思う。当時の海外セレブの雰囲気伝わる曲調だ。これから起きるであろうロマンスを想起させるワクワク感も漂っている。

ジェニファーとアンソニー（ブート）が親しくなり色々な所に出かけて楽しい時間を過ごしている時にかかっていたのが、「かわいい小鳥」、歌っているのはマリアン・フェイスフルだった。

彼女はイギリス生まれの歌手、女優である。若い頃はベビーフェイスでチャーミングな女優で、かつては、アラン・ドロンと共演したり、ミック・ジャガーと交際したりと売れっ子であった。年老いてからの彼女が主演の映画を一度だけ見たことがあったが、素敵に年を重ねていた。今年1月に79歳で亡くなっている。

かわいい小鳥、ザ・リトル・バードの意味は直訳と意識で随分意味合いが違うのだろうな。道ならぬ恋愛に走った男女を象徴的に表しているのか、静かだが気持ちがザワザワしてくるような歌声は大変魅力的。

多彩な俳優陣で演技が光るさて、禁断の恋人たち。若い時



『教皇選挙』

福田良夫

観おわって最初にうかんだ感想は信仰にも宗教にもかかわりのない話だな、というものだった。教会という世界最大規模の組織のト

のジェニファアをシェイリーン・ウッドリー。年老いてからをダイアナ・ケント。アンソニーに、私的にはかなりタイプのカラム・ターナー、老いてからを、五年前に亡くなった「炎のランナー」のベン・クロスが演じている。
ジェニファアの夫はジョー・アルウィン。この人もハンサムで捨

てがたい。(笑) 役柄によってはクールで素敵だと思う。

エリーはフェリシティー・ジョーンズ。彼女の演技はいいですねえ。後にエリーと恋仲になる資料室保管係のローリーは、ナブザン・リザワンというインド系のイギリス人である。

ップを選ぶ手続きと候補者にまつわるストーリーは誰もが関心があるろう。ちょうど現実にローマ教皇が死亡して選挙が行われていた時期にあたる。一般にも関心が高まりヒットしていると新聞が報じていた。じつさいに朝一番の回にもかかわらず満席に近い観客を集めていた。わたしにとってもこれほど観客の多い映画館は久しぶりである。

映画は選挙を取り仕切る主人公を中心に各候補者の過去と行動を追っている。死亡した教皇は改革派だったらしい。まず、それを引き継ぐべき候補者、この人を主人公も推している。次いで保守派の主張をもつ野心のある候補者、三番目がアフリカ系で初めて教皇になろうとする黒人の候補者。さらに教皇になるつもりはないと公言

気持ち伝えるための行動

1960年代と現代では気持ちの伝え方に違いはあるのか考えてみたい。手紙は、メールやラインやXなどと違うように見えて文字で表すことは同じ。速度の差はかなりある。けれど結局、アナログでもデジタルでも速度が違おうが、相手に気持ちや真実が伝わっている

する主人公である。それにアフガンなど紛争地で活動してきて、はじめて選挙に参加する謎の多い比較的若い人物がからむ。

これらの候補者がさまざまな姿をみせる。ある候補は女性がらみの過去のトラブルを暴かれて足を引つ張られ、身を引くほかになくなる。そのたびに、主人公は事実確認に走り回り、ドラマが展開していく。選挙は、選挙人(候補者も含まれる)を缶詰め状態で実施されるため、外部と接触できない。主人公は事実を部下に調べさせている。途中の爆弾事件を背景に保守派の候補が、持論の演説をするほか、主人公が推す改革派の候補は、外聞を心配するなど器の小ささを露呈する。その間に何度も投票が行われるが、いずれも所定の数を集められない。このような紆

るかどうかは、行動が全てを表すのではないか。

年離れた男女が誤解を解き、最後にもう一度会いたいと思い、気持ちに変わりはなかったと相手に伝えに行った行動に乾杯である。そして、現代のエリーもローリーに気持ちを伝えるに行く。

終わり

余曲折の末に、新教皇が選ばれ決定する。

最初に信仰にも宗教にもかかわりがないと述べたが、登場人物の服装が司祭のそれではなくスーツ姿だったら、どこかの大企業のトップを選ぶ過程と同じになる。取り上げたトピックを思えば納得されよう。人間の営みのありようは教会の外でも内でも変わらないということである。もちろん、映画の内容は、そこそこ緊張感があり面白かった。及第点といえる。

なお、疑問が一つある。新教皇に選ばれた者が、主人公に手術を受けていないか確認される場面がある。同性愛的なものは認められない、身体に傷をつけるのは許されないということだろうか。考え・思想の限界ともいえよう。

謹んで冥福を祈る

星 文子

生きていることが苦痛で、自力で解決できそうもない問題を抱えていたとしても、そのような極端な方法ではなくもつと一般的な打開策はなかったのか。傍目には諦めが早すぎるというか、こらえ性がないと映ったとしても、本人しか与り知らない闇にはまり込んでしまったのだろう。家族の紐帯が強い韓国人が、間違いなく家族に与えることになる衝撃や苦痛にさえ目をつむれるほどの苦しみを抱えていたのかと思うと胸が苦しくなる。

2009年韓仏合作映画『冬の小鳥(原題:旅行者)』でデビューしたキム・セロンは、この映画での子役らしからぬ繊細な内面演技を絶賛され、カンヌ映画祭にも招請された。

韓国のドラマや映画に出てくる子役たちは概して演技が上手い。驚くほど見事に心の機微を表現するの、わざとらしさや、こまっしゃくれた嫌みがない。子役専門に演技指導をするシステムがあるからだ。韓国の友だちは言うが、日本だって児童劇団の類いは存在するのに、この違いは何に由来するのだろうか。

キム・セロンの場合、幼少時にかなり特異な体験をしている。雑誌モデルとして売り出し中だった母親は妊娠を機に結婚し、20歳の若さでキム・セロンを産んでいる。セロンをはじめ2歳ずつ年の離れた美形の三姉妹は母が果たせなかった芸能人になる夢を実現すべく、幼い頃から雑誌やCFモデルとして活動している。

詳しい事情はわからないが、あるとき母親は夫のDVに苦しむあまりか、幼い娘たちを道連れにマシンのペランダから身投げして親子心中を図ろうと思い詰めたという。そのとき「お母さん、怖い!! 助けて!」とペランダの手すりにしがみついて哀願するセロンの声で正気を取り戻した母親は心中を思いとどまったという。

母親自らSNSでわざわざそんな体験を披露するだけでも疑問なのに、トラウマというべき「このときの体験がキム・セロンの演技に深みを与えた」と続けて、良識ある人々の非難を浴びたこともある。

日本と同じく、韓国でも「子役出身の役者は大成しない」と言われていて、大人の役者になっても

なぜか一人前扱いされない傾向がある。

もう一昔前のことになるが、当時ルックスも演技力も申し分ない男の子役がいた。ドラマにCFに引つ張りだとなり、ギャラもあなどれないほどになった。父親は仕事を辞めて個人事務所を設立し、母親も送迎など雑事を受け持った。ところが好事魔多し、この夫婦、離婚することになり、子どものギャラをどういう割合で分けるかを巡って大もめにもめたという。その後その子役がどうなったかは不明だが、多分俳優の道には進んでいないようだ。

キム・セロンは幼い頃から雑誌やCFのモデルとして人気を集めた。芸能人になるのが夢だった母親が娘にその夢を託して、マネージャー顔負けのバックアップをしたという。ちなみにセロンという名前は韓国の伝統的な漢字の名前ではなく「新しい」という意味の形容詞「セロウン」に由来するという。『冬の小鳥』のオーディションでは千倍の倍率を勝ち抜いて抜擢され、見事に期待に応えた。その後も数々の映画やドラマに出演し、お茶の間でも人気を集めた。キム・セロンは映画では厳しい

今年(2025年)の3月歌手のフィソンがこの世を去ったという報道に接した。自死だった。彼の場合かねてから鬱病による不眠症に苦しんでいたから、こんな日が来ることは予想できなくはなかったがプロデューサーや作詞家としても活躍していたので、どうして今?という思いだった。

ニュースなどで自殺が報じられる場合、直接的に「自殺した」という表現を避けて『極端な選択をした』というのが一般的だ。先頃極端な選択の事実が報じられたのは女優のキム・セロン。

環境に置かれたり、つらい境遇に耐えて生きる暗い役割を演じることが多かった反面、ドラマでは明るいしっかり者のイメージが強い。

2018年の『雪道』では満洲に慰安婦として連行される少女を演じ、韓国の成人の年である19歳以降も大人の演技者として安定した評価を得た。

これといったゴシップにも巻き込まれず、順風満帆に見えた彼女の人生が暗転するのは2022年5月のこと。某日早朝、泥酔状態でランドローバーを運転して江南区の路上で信号機やガードレール、街路樹、路上の大型変圧器（ソウルでは日本では目にしないような大型の変圧器が歩道に設置されていることがある）、露天商の店舗などに次々衝突する事故を起こしたのだ。変圧器の故障で付近一帯は停電になり、信号機も作動せず、近くの店舗では電子決済ができなくなつたという。商品が散乱した店もあった。弁解の余地のない飲酒運転事故だった。後日彼女は被害を与えた店舗や家屋を一軒一軒お詫びに回つたと言うが、ドラマから受ける「礼儀正しいしっかり

者」というイメージが事故の衝撃を和らげるのとは逆の方向に働いたようで、しつけの悪い金持ち娘のイメージが定着してしまった。

仕事も干された彼女は、生活費のためにさるコーヒーショップでアルバイトしているとSNSに写真を上げたが、合成ではないかと疑う声が殺到した。事故で曲がったガードレールや故障した変圧器の修理代として罰金200万円が負荷された。当然仕事も干され、撮影済みだった映画やドラマの制作会社や広告会社に支払うべき違約金は数千万円規模という。

更に彼女を追いつめたのは父親の事業の失敗かもしれない。娘の豊富な資金力をバックに旅行業を営んでいたセロンの父は、中国から直接観光客を呼んで韓国を車で案内するというアイデアが当たり順調に事業を進めていたが、コロナの直撃を受け、自己破産に追い込まれることとなった。出資者として名を連ねていたセロンも1億円の負債を負う身となつてしまったのだ。

セロンが映画出演などで得たお金を家族が生活費として濫費したという世評に両親は反発している。

潤沢な資金力がある場合、不動産投資をしたり娘の知名度を利用してその信用を武器に高利で貸し付けるなどして何倍にもするのが保護者の（一般的な場合妻の）甲斐性と考えられる韓国社会ならではの非難かもしれない。

またドラマ『涙の女王』の二枚目キム・スヒョンが未成年のキム・セロンと付き合っていたと親が証拠まで出して非難しているのはおかしい話で、証拠があるなら、親も当時から知っていたわけで、もし彼が未成年の娘と付き合うのが好ましくないかと判断したなら、その時点で反対するなり別れさせればいいだけのことだ。今頃になつて騒ぐのは故人のためにもならないと思う。母親にすれば、自分の果たせなかった女優の夢を叶えてくれ、豊かな暮らしをさせてくれた自慢の娘を思いがけず早々と失つた衝撃があまりに大きくて誰彼かまわず八つ当たりしたい心境なのかもしれない。

ある意味では母親の敷いたレールに従って順調に生きてきた娘が、成人後独立を果たし、自由は得たけれども、自力で問題を解決するには問題が大きすぎ対処する力が不足していたのかもしれない。

2000年生まれ、2009年に映画デビューし2025年死去するまで、彼女が出演した映画は15編、ドラマは20編。追悼の意味かアマゾン・プライムでは5月現在デビュー作の『冬の鳥』と『雪道』がラインアップされている。個人的なお勧めは『バービー』（2012）。

あるアメリカ人親子が、娘に移植する心臓のドナーを確保するために韓国の貧しい少女を買い取り、養女としてアメリカに連れて行くべく地方の寂れた町を訪れるというなんとも凄惨な話で、しかも実話に基づくという。この映画でキム・セロンはすぐ下の妹キム・アロンと共演しているが、当時10歳のアロンが演じる小憎らしい妹が見事に物語の悲劇性を高めている。遺作の『ギターメン』も、まもなく公開されるらしい。成人として最後の作品でもあり、上映が待たれる。

×
×
×



「駅馬車」ジョン・ウエイン

関心をもった映画

土田 博志

白黒映画を、人工知能AI技術を使い映像をカラー化して、DVD販売し著作権法違反をしたとのニュースが六月十七日に流れました。

法律を、無視し身勝手な行為は許されるものではないと思います。しかるべき手続を踏み、許諾を得て実施すべきでしょう。

日ごとに技術進歩するAI。AIによる動画編集で、人の顔、

声を模したディープフェイクが回り、本物と見間違えてしまい、混乱します。

我が家には、フェイクではないレオ、アキ、リラの3匹の愛犬がいました。

犬種は、ラブラドルレトリバー、柴犬のミックスです。

子供が、犬を飼いたいと言い出しましたが、飼育方法等知識も無いので、何年か保留にしています。

2010年「きなり 見習い警察犬の物語」が上映されました。

子供が見て、より一層かいたい気持が強く生まれたようです。

警察犬訓練士と子犬のラブラドルレトリバーきなりが、警察犬になるための訓練を通して、互いに成長と失敗をくり返します。

見ていて、もうダメではないかと思いつつ、熱い愛情とふれあいがあり、ついに警察犬試験に合格します。

犬の表情、動きは、人間ではだせないものがありました。

犬が出てくる映画は、名犬ラッシー、ハチ公物語、南極物語、ベートーベン、101匹わんちゃん等、数多く製作されています。

犬は、しゃべらない代わりに仕

草で表現するのすごいと思います。

「きなり」の、映画を見てラブラドルレトリバーを飼う事になった、記念となる映画です。

「よろずや平四郎活人剣」

(テレビ東京・2007年)

8話連続・第3話「道楽息子」

田中 稔

マカロニウエスタンも良いが、時代劇も面白い。そのためにBS放送やCS放送を活用している、大体晩酌の時にはお決まりの時代劇が大相撲である。時間も1時間のため都合(ワイフの手前)なのである。

今回は、藤沢周平原作「よろずや平四郎活人剣」の感想を書くことにする。藤沢周平は多くの小説や随想集を世に送り出しているしテレビドラマ化されている作品も多く、7年前の藤沢の作品「人はどう生きるか」は興味深い作品で

「少林寺拳法シニア流山健康クラブ」(代表者：青柳武)は、一般財団法人少林寺拳法連盟の管轄下であり、少林寺拳法の技法のエッセンスを取り入れた手軽な運動により、健康増進を目的と

ある。この小説を機会があれば読んでみたいと思う。

本題に戻ることしよう、奉公先のないその日の生活にも困る浪人、神谷平四郎(中村俊介)はとにかく生活のための金を稼がなければならず、困り事を引き受けて対価を得る「よろず相談所」をなりわいとしていた。平四郎には仙台浪人、北見十蔵(山田純大)と言う腕の立つ仲間がおり助け合って生きてきた。長屋に住む「おもん」(星野真理)は女郎をしていた頃の客だった男と一緒に暮らしていた。この男、佐吉は元々両替商を営む丸菱屋の息子だがお店の二代目になりがちな放蕩息子で三日にあげず女郎屋のおもんの元に通い、博打好きで酒におぼれ遊ぶ金欲しさにお店から金を持ち出していたため親に勘当されたのである。おもんを大金で見受けたいという立橋屋の主は、おもんの嘘のない素直で筋の通った性格と器量の良い所に惚れ、お店の嫁として来てほしいと望み、五十両をおもんにじかに渡した。

して活動しています。流山市立常盤松中学校・武道場で週2回(火曜・木曜、夜7時から1時間半)、流山市コミュニティプラザで週1回(金曜、朝10時から1時間半)練習しています。

ところが金のない佐吉は長屋でおもんと隠れるように住んでおり、相変わず酒におぼれ、おもんにつらく当たっていた。おもんは持っていた大金五十両を佐吉に見つかり取られてしまう。

佐吉はこの金を元手に腕の立つ浪人を集め、自分の親のお店に押し入る算段をやくざの親分に約束させる。そうとは知らず平四郎は

祝・石井宏明先生

本誌の常連執筆者である石井宏明先生が、令和6年度の武道功労章を受章されました。

これを祝して、お仲間の佐藤康雄さんから受章お祝いの言葉をいただきました。ご紹介させていただきます。

武道功労章とは、日本武道協議会（会長＝高村正彦）に加盟する10団体（日本武道館、全日本柔道連盟、全日本剣道連盟、全日本弓道連盟、日本相撲連盟、全日本空手道連盟、合気会、少林寺拳法連盟、全日本なぎなた連盟、全日本柔剣道連盟）の中から、武道の発展に貢献した人物が毎年各1名選ばれます。昭和56年（第1回）から行われており、令和6年度で第43回を数えます。

親分から用心棒の仕事を引き受ける、しかし親分の手先に捕らえられたおもんを助けてしまう。親分にとって平四郎は裏切り者であり、親分の陰で出世のために金儲けをたくらみ裏で糸を引く代官、但馬守の陰謀を見破った平四郎と北見十蔵が佐吉とおもんを剣の力で助け出し、騒ぎを聞きつけた北町奉行遠山金四郎が制圧に乗り出し

石井先生との出会いと思い出

佐藤康雄

本年一月武道功労章を受章されました石井宏明先生の師弟関係にあり、かつ私と走る仲間であります田中稔さんから「シネマ気球」に石井先生のことなどを書いてほしいとの依頼を受けました。当初私は少林寺拳法もやっていないし映画もあまり見ないことから、一旦お断り致しました。しかし石井先生、田中さんとも長い間親交がありかつ尊敬していることからお引受したしだいです。

石井先生との出会いは、二〇数年前にさかのぼります。流山市が関与している「健康ジョギング講習会」（注）です。

た。佐吉の父、両替商の主もおもんの気性の潔さに負けて息子佐吉の嫁に迎え、佐吉の勘当を解き丸菱屋の後継ぎとして迎え入れたのである。

よるや平四郎の剣は困っている丸菱屋や二代目の佐吉、おもんと目をつけた人々の悪意でなく、善意に目を向け、お互いの誤解を解き、人を活かすために剣の力を使うと

（注）「健康ジョギング講習会」

とは、流山市教育委員会から委嘱を受けたコミュニティ、スポーツリーダーが市民の健康維持・増進に寄与するため毎日曜日、八木北小学校校庭で、ラジオ体操、ストレッチ、筋トレ、歩く、走る等をしております。

ここで石井先生と知り合い、親交を重ねると共に講習会の集まりの中に走るクラブ「コスモス流山」があり、これにも所属し石井先生や仲間と走りまわりました。そしてあちこちのフルマラソン、ハーフマラソン、流山の一〇キロロードレース等に参加しました。この他にも正月元日歩いての初詣（香取神社）や走っての流山七福神めぐり（約二〇キロ）等もしました。

しかし最近まで石井先生が少林

ころにこの時代劇は焦点を当てている。少林寺拳法の傷つける拳ではなく、人を活かして己も生きる破邪顕正の活人拳を連想させ、かつての様な勧善懲悪の時代劇ではない新しい風を感じさせてくれた。

×

×

×

寺大範士八段であること、しかも武道功労章を受章されるような方とはつゆ知らず失礼なような言動をしたことを深く反省しています。この場をお借りしておわび申し上げます。

これまでおつきあいをして感じること、石井先生は少林寺拳法をメインにしながら、これを生かして市民の皆さんの健康保持・増進等の為に活動され、その他の面でも多くの社会貢献をなされたことです。先生は、温厚、実直な方でいばらず、親切で、すばらしく立派であります。

これからも「健康第一」にして引き続き各方面で活躍されますことを祈念いたします。

私はこれを機会に映画鑑賞をふやしていきたいと考えています。

以上

outsiderの映画事情9

門屋 大ニ

映画 outsider であることとをまた「映画」を語る資格も危ういことも重々自覚しております。80歳を過ぎた年齢のものにとつて「映画」を見ることは、非日常を辿ることで精神の若さ維持するための不可欠の要点とも言えようか。

印象に残っている映画記憶を辿ることは貧弱ながら歩んだ我が「映画思考」の経緯を辿りひいては我が精神を高揚させた「風景・物語」を蘇らせること。「少林寺健康クラブ」のご縁で関田さんからこの様な貴重な機会を毎年与えて頂き感謝しつつ今回も我流に「映画」に思いを馳せ出来るだけ視点を広げて日常を振り返り映画感を最新版にすることを試みることに。少林寺健康クラブには石井先生・関田

さんと言う映画巨人。且つて教室でお二人の映画談義を聞くにつけ outsider も「話題の映画を意識」したこと多々。映画を取り巻く環境も多様化しており様々な工夫が作品に結実している。映画の楽しみ方も人それぞれで映画館

で観るだけでなく、動画配信により自宅で「映画鑑賞」も可能。映画界は、様々な課題を抱えながらも幾多の試練を乗り越えて新しい技術や表現方法を取り入れ観客の多様な要求に応えて前進していくのである。我が歩んで来た「映画経験」の起点となった映画「駅馬車」・「第三の男」は我が青春期の映画記憶の中で懐かしい特別な存在である。数十年前の感動を思い出しながら再鑑賞した次第。最新版「国宝」・「新幹線大爆破」の映画の印象も含めて以下に。

駅馬車…

「駅馬車」は現在も高い評価と人気を受けて続けており映画史上に残る不朽の名作で人気ランキングでは必ず上位にランクされる。一致した評論は『駅馬車』は「西部劇」のジャンルが提供出来る最高のものを代表している。ジョン・フォード監督のダイナミックな演出とジョン・ウェインの魅力的なスター性によって素晴らしい大冒険作品となっている。1880年、ニューメキシコ州ローズバークに向かうひとつの駅馬車に様々な人が乗り込む。娼婦のダラス、酒を飲むためなら何でもやる医者ブーン、

妊娠中の若妻ルーシー、ウィスキーのセールスマンのピーコック、さらに賭博師ハットフィールド。彼らに御者のバツク、ウィルコック保安官を加えた計7人が先ず搭乗。金を横領しそのまま高飛びするつもり銀行家のゲートウッドが途中で乗り込む。そして最後にもう一人、馬が足を折つたため立ち往生していたリング。リングは父と兄弟がブラマー兄弟に殺されたことを知りその復讐をするために脱獄して兄弟のいる街に向かう途中。保安官はリングが返り討ちになるのを防ぐためにリングを拘束状態に置く。馬車は最初の中継地アパッチウェルズに到着。名高いジェロニモがアパッチ族とともに馬車を襲う可能性があり多数決でこのままローズバークに向かうことを決める。さらに続く道中でハットフィールドは身重のルーシーを献身的に支援しリングは皆に冷たい態度を取られているダラスに同情してアル中のブーンはピーコックの「酒」を飲み続ける。次の中継地ドライフォークでは軍人の夫が負傷したと聞かされたルーシーがショックで倒れ産気づく。酒に溺れ続けるブーンも医者らしい態度に戻り何とかルーシーを無

事に出産させる。女の子誕生。リングは同情を寄せていたダラスへ恋情をつのらせ結婚を申し込むがダラスの明確な返事は得られず。アパッチの狼煙を見ながら駅馬車は進むが遂にはアパッチの襲撃を受ける。リングを中心に乗客たちは必死の応戦。ピーコックとバツクが負傷。ハットフィールドが死亡。騎兵隊が到着したことで何とか他の乗客は助かることに。行き着いたローズバークで結局ゲートウッドは逮捕。ルーシーも夫が軽症だった事を知り安堵。リングはブラマー兄弟と決闘。彼らを倒す。保安官はわざと見知らぬふりをしリングを解放。リングは一緒に暮らすことを決意したダラスと2人馬車に乗って去る。久しぶりに「西部劇の要」を満載した「傑作」を満喫し昔覚えた感動を辿つた次第。テーマ曲はICレコーダーに取り込んで再生を繰り返している。酒場でルーク・ブラマーがポーカールをしていた時リング・キッドがやって来たこと知らされてその場に捨てたポーカールのカードはAと8の黒のツー・ペア。俗に「死のカード」と呼ばれる組み合わせ。Aと8の黒のツー・ペアのシーンも懐かしい印象深い挿話。

第三の男…

映画『第三の男』は、第二次世界大戦後のウィーンが舞台でその後の映画に大きな影響を与え続けている。映画史に大きな足跡を残している。特に、映像表現・音楽・物語・テーマが高く評価され続けている。映画冒頭より流れるテーマ曲は多くの人に聴き覚えのあるものになっている。この曲は日本の大手ビートルメーカー「サッポロビール」の商品「エビスビール」のCMに使用されたことで知られている。東京の恵比寿には、かつてサッポロビールの前身となるビール工場がありその場所は「恵比寿ガーデンプレイス」となっていた。そのイメージによりJR恵比寿駅の発車メロディとして、いまでも『第三の男』の曲が恵比寿に響いているとのこと。

米国の西部作家ホリー・マーティンスは旧友ハリー・ライムに呼ばれて四国管理下にある戦後のウィーンにやって来たがハリーは自動車事故で死亡しまさにその葬式が行われていた。マーティンスは墓場で英国のMPキャロウェイ少

佐と連れになりハリーが闇屋であったときかされたが信ずる気になれなかった。ハリーは生前女優のアンナと恋仲であったが彼女と知り合ったマーティンスは彼女に対する関心も手伝ってハリーの死の真相を探ろうと決意ハリーの宿の門衛などに訊ねた結果彼の死を目撃した男が三人いることをつきた。そのうち二人はようやく判ったが『第三の男』だけではどうしても判明しないままマーティンスは何者かに脅かされはじめ門衛も殺されてしまった。一方アンナは偽の旅券を所持しソ連MPに捕まりそれとも知らずに彼女の家から出て来たマーティンスは街の物陰に死んだはずのハリー・ライムをみつけた。ハリーがペニシリンの密売で多数の人々を害した悪漢であることを聞かされていたマーティンスはこれをMPに急報し、アンナの釈放と引きかえに彼の逮捕の助力をするようキャロウェイから要請された。マーティンスはハリーと観覧車で逢い改めて彼の兇悪振りを悟って親友を売るもやむを得ずと決意したが釈放されたアンナはマーティンスを烈しく罵つ

た。しかし病院を視察してハリーの流した害毒を目のあたり見たマーティンスは結局ハリー逮捕に協力することになり囹として彼をカフェで待った。現れたハリーは警戒を知るや下水道に飛び込みここに地下の拳銃戦が開始され追いつめられた彼はついにマーティンスの一弾に倒れた。かくて改めてこの『第三の男』の埋葬が行われた日マーティンスは墓地でアンナを待ったが彼女は表情をかたくしたまま彼の前を歩み去って行った。

国宝…

「国宝」は、歌舞伎の世界を舞台にした作品で歌舞伎という伝統芸能を題材にすることで日本の文化や歴史を深く掘り下げた作品として邦画史上特別な意義を持つと思われる。後に国の宝となる男は九州極道の家の跡取り少年喜久雄。抗争によって父を亡くした喜久雄は上方歌舞伎の名門の当主・花井半二郎に引き取られ歌舞伎の世界へ飛び込む。半二郎の実の息子として生まれながらに将来を約束された御曹司・俊介と出会う。正反對の血筋を受け継ぎ生い立ちも才

能も異なる二人はライバルとして互いに高め合い芸に青春をささげていくが多くの出会いと別れが運命の歯車を狂わせてゆく。血筋と才能、歓喜と絶望、信頼と裏切り。そのものがきき苦しむ壮絶な人生の先にある「感涙」と「熱狂」。任侠の一門に生まれながら女形としての才能を見出され歌舞伎役者の家に引取られた喜久雄。彼はやがてその家の御曹司と切磋琢磨し芸に青春を捧げていく。彼らは芸に青春を捧げながら数々の出会いや別れを経験し運命に翻弄されていく様子が見るものを惹きつけて止まない。任侠の家に生まれながら歌舞伎役者として芸の道に人生を捧げた男の激動の人生を描いた人間ドラマ。喜久雄は半二郎の跡取り息子・俊介と兄弟のように育てられ親友としてライバルとして互いに高めあい芸に青春を捧げていく。そんなある日事故で入院した半二郎が自身の代役に俊介ではなく喜久雄を指名したことから2人の運命は大きく揺るがされる。

新幹線大爆破…

パニック映画としての面白さ。

予測不能な状況下での乗客の行動や新幹線という閉鎖空間での緊迫感が観客を魅了する。東京行きの新幹線に仕掛けられた爆弾。速度が時速100kmを下回ると爆発するという状況下車内はパニック状態に陥る。時間との闘いのなか乗客全員を救うべく鉄道人たちが奔走する。走行中の新幹線に一定の速度を下回ると作動する爆弾が仕掛けられ危機に直面した乗務員・乗客や鉄道会社・政府・警察の面々と爆弾を仕掛けた犯人が繰り広げるノンストップの攻防が展開。新青森から東京へ向けて定刻どおり出発した新幹線「はやぶさ60号」。車掌はいつもと変わらぬ思いで乗客を迎える。そんな中1本の緊迫した電話が入る。その内容ははや

ぶさ60号に爆弾を仕掛けたというもの。爆弾は、新幹線の時速が100キロを下回ると即座に爆発するという。極限状況の中乗客を守り爆弾を回避すべく奔走する。一方犯人は爆弾解除のかわりに1000億円を要求してくる。はやぶさ60号の乗務員・乗客はさまざまな窮地と混乱に直面し事態は鉄道会社や政府・警察・国民をも巻き込み犯人とのギリギリの攻防戦へと展開していく。JR東日本が特別協力し実際の新幹線車両や施設を使用した撮影が行われたとのこと。新幹線という日本らしい題材を日本映画の伝統技術とも言える特撮技術を生かして制作したことも素晴らしい。日本の特撮が世界で通用することを示したか。本作

の面白さはスピードを落とせない新幹線の緊迫感と普通の人々が一生懸命地味な作業を積み重ねて危機を突破していくということ電気配信の直しだったリールの移動だったりきわめて地味な作業が詳細に描写される。ダイナミックに走行する新幹線はこんな凄い場面どうやって撮影したのかと思うぐらい圧巻。特にハイスピードで疾走している中で線路をギリギリのタイミングで切り替える所は緊張感の極致か。JR東日本・新幹線の車掌と運転手・乗客の人間ドラマがそれぞれで迫力をもって迫る。映画は、登場人物の感情や経験を共有することで自己理解を深め他者への共感を育む上で重要な役割を果たしている。映画はまた様

々な文化や価値観を持つ世界を描き出すことで私たちの視野を広げ、多様な視点を受け入れることを可能にする。映画はさらに価値観や人生観に影響を与えている。感動的な物語や魅力的なキャラクターを通して私たちは新たな目標を見つけたら困難を乗り越える勇気を得たりすることにもなる。このような事実は映画鑑賞が単なる娯楽にとどまらず私たちの人生に深い影響を与えることを示唆している。映画は私たちをより深く理解させ世界をより広く見せそしてより良い人間になるためのインスピレーションを与えてくれる強力なツールと言えるか。

冬休み映画日記

(2024—2025)

柳橋和郎

バイトが冬休みになる12/29、1/5、毎日映画館に行くことにしました。

12/29「私にふさわしいホテル」

おたかの森 8・20

初日はどの映画を見るではなく自分の好きな、おたかの森のprimerで何を見ることができるとかで映画を選びました。primerは前号にも書きましたが定員を56名と少なくし全席一回り大きい席で、リラックスして楽しめます。尚スクリーンは大きいです。最近の映画館なので階段状に席がなっていてスクリーンが見やすく、

ここは自分が1番気に入っている映画館の一つです。早い時間の映画を選び、モーニングとしてジュースとホットドッグを注文、プレート持って館内に、席の横にはその大きなプレートが丁度置ける小さな台が付いて便利です。朝食を食べながら映画鑑賞です。

それでこの映画は馬鹿くらないう映画で自分の好きな映画でした。主人公は小説家志望で新人賞をと

るのですが、業界にらみが効くある有名小説家が批判したため、その後活躍ができずその仇をとるといふドタバタ喜劇です。撮影現場は有名な作家達が良く利用した神田駿河台にある山の上ホテルです。散歩した時こんなところにホテルがあるのかと思っていました。内装、外装とも歴史に残る建物です。建物が古くなり営業をやめるという話がでて残念に思っています。

したが、明治大学が購入しました。大学が買ったということですからどんな営業をしていくのでしょうか？

12/30 「不思議の国のシンド」銀座シネスイッチ10…10

今日は朝起きると家の前は枯れ葉の山、燃えるゴミの年内最終日なので、集めて捨てました。思ってたより時間を取りました。朝食をとり銀座に出かけようと食べ始め時間を見ると予定の出発時間になつていました。ただ目の前にスクランブルエッグが有りもったいないと食べたなら、ちよつと出かける時間を過ぎていました。千代田線で日比谷経由で銀座に向かいました。ただ湯島あたりで時間を確認すると確実に遅刻です。そしてシネスイッチは初めてだったので素直に駅から着けるとも限らないので、行つても入れない可能性があり、無理はやめ湯島で下車、散歩に切り替えました、スクランブルエッグを食べなければ良かったです。湯島から上野公園にいき美術鑑賞も良いのですが冬休みになつて美術館も多く行ったら休み

ということもあるので西日暮里までのウォーキングにしました。歩いている途中路地の奥に少し長い階段が見え、路地とか坂とか階段があると思つてみたくなるので行つてみました。登ると、しろへび坂というのがこの坂と階段の名前で登り切った正面は森鷗外記念館の裏に出ました。振り返るとスカイツリーがど真ん中に見えています。高台で落ち着いた住宅街で森鷗外もこのへんを散歩していたそうです。案内があつたので見ると夏目漱石が「我輩は猫である」を書いた住居跡が近くにあるのとこので行きました。猫の彫刻が数匹おいてありました。そこをすぎそのまま歩いていくと高村光太郎の旧居後に出て西日暮里まで歩いて帰りました。結果この日は文学散歩となりました。目的なしの散歩も良いです。

12/31 「NOハンブルクNOビートルズ」シネマロサ池袋10…30

今日は昨日のようにならないよう余裕をもつて出ました。西日暮里で乗り換え、電車がすぐ来たのでなにげに乗ると空いているので

座ることもでき、順調でした。携帯を見てみると暫くすると川口というアナンス、山の手線ではなく京浜東北線に乗っていました。京浜東北線は普段は西日暮里には止まらないので気にせずに来た電車に乗っていました。時間見るとなるとか間に合いそうでした、昨日はあきらめて行かなかつたので本日は行くだけ行つてみよう、池袋の地下街から映画館に近い出口を見つけて迷わず映画館に行ければ間に合います。赤羽から埼京線で池袋に、池袋は出口が見つけないのですが映画館に一番近い出口はなんとか見つけ順調に地上に出ましたが、地上にでると五叉路です、地図は印刷して持つてきましたが、地図上の自分の立ち位置が良く分からず、ここから前か後ろか右か左かどちらに行けば良いのか？道路の名前の案内はなく、ヤマカンで右に行きましたが大外れ、開始時間に着くことができませんでした。またもや映画は見れませんでした。折角来たので今から見る事が出来る映画を見ることにし、見たのが「待タイムスリッパ」この映画は2024/8/17にこの池袋

シネマ・ロサのみで上映が始まりました。口コミで評判を呼びその後現在355館で上映、この映画館はインディーズの聖地です。脚本が面白く、京都東映撮影所が協力してくれました。制作費は2600万で内訳は安田淳一監督が貯金1500万、愛車のホンダNSXを売った500万、文化庁の助成金600万です。映画を撮り終わった時、7000円しか無かつたと言っています。

映画は江戸時代のサムライが果たし合いの最中タイプスリッパして現代の東映京都撮影所の時代劇を作るところに来てしまします。時代劇を作っているのが江戸時代と雰囲気は変わらず、周りの人達も気付きません。本人は段々状況を把握していき江戸は滅びたことを知ります。そして周りからは記憶喪失の人と認知されます。当然サムライの身なり振る舞いは完璧なので時代劇の斬られ役として認められ、有名な先生に弟子入りして生きていく事になります。そしてある人気俳優から時代劇を作りたいのではありませんかとオファーが来しました。実はその人気

俳優はあの時の果たし合いの相手ではやはりタイムスリップしてしました。新しく撮影する時代劇も果たし合いの場面がありその場面では決着をつけるためか真剣で勝負したいということになりその場面の迫力は凄いです。面白い映画でした。

1/1「推しの子」おたかの森21…10

おたかの森2回目、今度は最終時間の映画でした。原作はアニメで女性3人のB小町と言うアイドルグループが出てきます。乃木坂46等のアイドルグループからメンバーや他のアイドルグループより選ばれています。

〈B小町 新旧メンバー〉

旧 斎藤飛鳥 乃木坂46メンバー

新 斎藤なぎさ Loveの元メンバー

新 原菜乃華 女優

新 あゆめるモ！に在籍していた。

アイドルが映画の中でもアイドル役をやっています。アイドルの(斎藤飛鳥)が秘密裏に妊娠しますが、それを嗅ぎつけた熱狂的なファンが担当医と斎藤飛鳥を殺してしまいます。お腹にいた子は双子で2人の生まれ変わりとして生まれてきて仇を打つという話です。

おじさんにはあまり良くわからない映画でしたがB小町はかわいかったです。

1/2再度「NOハンブルクNOビートルズ」

12/31に遅刻で見ることで、1/2が最終日ということで再度見にきました。2度あることは3度あるとは言いますが、またもや西日暮里で来た電車に無意識で何気なく乗ってしまい、またもや京浜東北、今度は上中里で気付き隣の田端にもどり池袋へ。気付くの早く間に合いました。

ビートルズのデビュー前のドイツハンブルク時代の話でメンバー18歳、ベースはシュツサトリフ、ドラムにビートベストにジョンとポールとジョージの5人の時です。シュツサトリフはジョンが1番親しくしていたメンバーですが、ビートルズが人気出る前に病気で死んでいます。ビートベストはビートルズがデビューする時マネージャーのジョージ・マーティンがきにいらなくてリンゴと代わっています。ビートベストはカッコ良くて1番人気あったのですがドラムはリンゴ程演奏力も個性もないように感じました。

1/3再度「不思議の国のシンドリッド」

昨日に続いて12/30に遅刻で見ることできなかった映画を見に行きました。日本、フランス、スイス、ドイツの合作映画で、監督はフランスのエリーズ・ジラルです。夫を亡くし生きる喜びを無くしたフランスの作家が日本に招待されあまり乗り気でなかったのですが日本にきて人との出会い等で夫の思いでから抜け出せ、人生を取り戻します。主役の女優は同じフランスのベテランのイザベル・ユベールを起用しています。外国の監督が日本を舞台に撮影、ベテランの女優を起用している事に面白みを感じて見ました。

監督のエリーズ・ジラルはもと日本に興味があった人で今回その日本を舞台に描いています。日本人と違う視点が面白かったです。また成瀬巳喜男や小津安二郎に影響を受けています。前号の時も感じましたが小津安二郎に影響を受けている海外の監督は多いです。

1/4は外に出るのも疲れてきて家のシアターで見ることにしMAZONのプライムビデオで探

したところ「バリタクシー」が面白そうだったので見ました。

2023/4/7公開の映画です。この映画は良かったです。いろいろ家庭の事情をかかえた運転手の車にたまたま乗った92歳の女性が老人ホームに送ってもらう道のりで、運転手に今までの人生、事件や思いで等話を、その思いのあるパリを寄り道しながら施設に送ってもらいます。

過去にどうしようもない夫に苦しめられ仕返しして罪に囚われた話し、この仕返しがあつと驚く仕返しでしたが、昔は男性に比べて地位が低くされていた女性の問題も提起をしています。この映画は人生の味を表現しています。面白い映画だったと思っていたらこの映画を原作に「TOKYOタクシー」として山田洋次監督が倍賞千恵子とキムタクで映画を作るというニュースが。2025年11月21日公開されると知りました。ということ冬休み映画日記でした。

×

×

×

映画音楽の思い出

坂根 和子

私が初めて映画音楽を意識したのは「第三の男」のあの有名なチャターの曲で、記録を見ると日本公開は1952年とある。当時地方に住んでいたので多分翌年か翌々年、私が5、6才の時に母に連れられて映画館に行ったようだ。内容も解らず、ただ怖い曲、不安な気持ちになる曲として頭に残っていて、その後大人になって映画をみて納得したものだった。

小学生時代で覚えているのはウィーン少年合唱団出演の「野ばら」「菩提樹」。その澄んだ歌声とハーモニ、しかも子供が歌う二重唱や三重唱に大いに驚き憧れたものである。

中学、高校時代には音楽を主題とするミュージカルやエルビス・プレスリー主演の映画が地方の映画館でも次々と封切られた。「ウェスト・サイド物語」はそれまでのミュージカルとはダンスも歌もけた違いと評判になり、新聞や映画

雑誌にも多くとりあげられ、友人が二回も三回も観たと聞き、私も負けじと二回足を運んだことを思い出す。それまで二本立て、三本立てが主流だったのが、この頃から大作一本立てが始まったように覚えている。

その様年中、中学時代にみたエリザベス・テイラー主演の「ラブソデュー」。相手役のビットリオ・ガスマンが弾くチャイコフスキー作曲のヴァイオリン協奏曲に魅せられ、恋がたきのピアノリストが弾くラフマニノフ作曲のピアノ協奏曲にも感激してお小遣いでレコードを買った思い出がある。しかも、この映画で協奏曲の演奏形態を初めて知った気がする。

高校時代ではタイロン・パワーとキム・ノヴァク主演の「愛情物語」。カーメン・キヤバレロがショパンの夜想曲をポピュラー風にアレンジした曲が流れ、クラシック曲をそんな風にくずして編曲するのかが新鮮に感じた。それまではクラシック曲とポピュラー曲は全く別物と思っていたから。キム・ノヴァクがきれいで、相手役のタイロン・パワーが浅黒いおじさん

のようで、美女と野獣的な組合せにすっかりしたものだ。

又、壮大テーマ曲でイントロを聞いただけで映画の雄大な景色が目につかぶのは「アラビアのロレンス」「ドクトル・ジバゴ」「風と共に去りぬ」。「ひまわり」も今にして思えばあの景色はウクライナの広い畑に咲くひまわりで、哀愁を含む音楽は物語りのはかない結末を語っているようだ。

スクリーンに映し出された瞬間から心をわしづかみにされ、今までにない物語が始まる予感を抱かせてくれたのは「スター・ウォーズ」。音楽が流れると同時に画面には星の様な銀色の粒々が現われ、それと共にキャプションが浮かび上がり徐々に文字が小さくなりながら去っていく、次々に繰り返す。あたかも自分が広い宇宙空間にとび出していくような高揚感も忘れられない。

最近の映画の中で特に印象に残っているのは「戦場のピアニスト」。ユダヤ人の実在するピアニスト、シュピルマンの話を基にしたもので、ポーランドで第二次世界大戦中、ナチスの迫害から多くの友人

の助けを受けながら生きのび、戦後ピアニストとして復活するまでを描いた映画である。序盤、ラジオ番組を収録するスタジオでショパンの曲を弾くところからピアノの音に引きつけられ、夜想曲20番は映画のテーマ曲として流れる。

一時的にかくまわれたチェリストの友人の家で朝、彼女が弾くバッハのチェロ組曲一番の音で目覚めるシーンは、ユダヤ人以外の家では普通の生活が送られていることにはっとする気持ちだが、チェロの落着いた音に現われていた。次の隠れ家にひっそりと暮す中、置かれていたピアノの蓋を開け、鍵盤に指をはわせるだけで決して音を出して弾けない境遇に、頭の中だけで音を追う姿に思わず涙した。別の建物に隠れているところをドイツ人将校に見つかり、自分はピアニストだと伝えショパンのバラード一番を弾いてみせる。その姿に将校は胸を打たれ、時々食料を渡し、それで彼はかろうじて生きのびる。後半、戦争が終わわりドイツ軍は去り、彼は以前の様にピアニストとしての生活を送るが命の恩人であるドイツ人将校の行方は

特集 映画をもっと楽しもう

少林寺拳法シニア流山健康クラブ

分らず仕舞いである。

映画最後のエンドロールは画面の4分の1を使い、残りの画面に本格的な演奏者としてカムバック

「七人の侍」

杉山 昇

「七人の侍」は1954年に公開された。モノクロ映画で戦国時代を舞台に野武士の略奪に悩む農民の助っ人として7人の侍が協力して野武士の襲撃から村を守るという痛快な物語である。主演は三船敏郎と志村喬、そのほかにも懐かしい俳優が顔を揃えている。

侍たちを最初は恐れる村人だが、彼らの人柄に共鳴し、一致団結して戦いに挑む。

黒澤明監督といえはなんとなく「男つばい・正義の男」という気がするのには私だけではないでしょう。素晴らしい映画はたくさんあるが「弱気を助け強気を挫く」の如くが「七人の侍」ではなかるうか、実に痛快な映画である。私はこの映画を7回見ました。しかし上には上があり想像を絶する回数を見た人がある。見れば見るほど底の深さ

したシユピルマンがオーケストラと一緒に演奏会で大ボロネーズを弾く姿が映し出される。この場面はこちらも実際に音楽会に来てい

が味わえる。黒澤明監督の映画は数々あるが、やはり第一に君臨するのは「七人の侍」ではなかるうか…。

巨額な製作費を投じ、1年近い撮影期間をかけ、興行的にも大きな成功を収めたと聞いている。数台のカメラを駆使しての戦いのシーンはどこを撮っているかわからない。だから役者も真剣に戦いをせねばならない。緻密な編集技法などを駆使して、クライマックスの豪雨の決戦シーンなどは凄さを生み出すために雨のシーンには水に墨汁を入れ雨をより強く表現した。いわゆる黒い雨。

最後は勝ちと負けの対象。農民達は希望があり、生き残った3人には行くあても希望もない。果てしない旅が続くしかない。

腹一杯の白い飯が食える、困っている者をおろそかにすることができない、7人の侍は弱い農民のために命を惜しまず戦った。痛快な映画であり、黒澤明でなくてはできない随所に面白みがあつた。

るようで、曲終了と共に思わず立ち上り拍手を送りたくなる演出に大変感動した。

今後どのような映画と音楽に出

アメリカ映画「荒野の七人」(1960)はリメイク作。

「七人の侍」のストーリーを簡単に紹介しておく。戦国時代、奪う・焼く・殺す・女をさらう、百姓たちの村々を襲い暴虐のかぎりをつくす野武士の群れ。百姓たちは自衛する術をもたない。ある村では一計を案じた。「腹いっぱい飯を食える」という条件を出して武士の助力を乞うことにした。戦で浪人があふれみんな貧しい時代だ。利吉(土屋嘉男)、茂助(小杉義男)、与平(左卜全)は浪人探しに町へ向かう。勘兵衛(志村喬)らが百姓に手を貸すことになる。個性的な面々がそろった。いつも笑みを絶やさない五郎兵衛(稲葉義男)、勘兵衛の家来・七郎次(加東大介)、温厚な平八(千秋実)、剣に生きる久蔵(宮口清二)、まだ幼さの残る勝四郎(木村功)。百姓あがりの跳ね返り・菊千代(三船敏郎)も「ばか」となんとかは使いうで切れる」といわれ参加を許される。村に着いた侍たちは野武士の襲撃に備え

合えるか楽しみにしたいと思っている。

て、彼らを殲滅する作戦を立てる。百姓たちにも竹槍を持たせ戦闘訓練をする。野武士に対して百姓は余りにも無力だ。「ぺこぺこうじうじしている」根性まがりの百姓、それに対してそれは「武士がつくった」と勘兵衛。しかし百姓も強かな面をもっている。落ち武者狩りをして武具をしこたま隠しもっているのだ。それを知って複雑な気持ちの七人の侍。

野武士は30騎、山を下ってやってくる。種子島(鉄砲、3丁)、弓、槍、刀をもって。駆け込んでくる野武士を少数ずつ村に引き入れ、集団で襲いかかり殺戮。襲撃は何波にもわたって行われる。最後は雨中の決戦だ。勘兵衛の弓が水しぶきをあげながら敵に向けて飛んでいく。

戦いすんで村人は歌を歌いながらの田植え。丘には百姓ほか、侍たち4つの土饅頭。勘兵衛は言う。「今度も負け戦、勝ったのは百姓たちだ。私たちではない」。

イラスト
&
エッセイ

『ルイス・ウェイン 生涯愛した妻とネコ』

中田 好美

イラストをデジタルで描くようになってから、アナログ制作からはすっかり離れてしまった。手描きのイラスト動画などを観るうちに、手元に残せるアナログならではの魅力に再び惹かれ始め、眠ったままの透明水彩絵の具を久しぶりに手に取った。水を薄く伸ばした水彩紙の上に、絵の具をちゃんと載せると、ふわっと広がる幻想的なじみ。その動きはまるで生きていくようで、眺めているとほっと癒される。混ざり合う色に同じものは一つとなく、グラデーションの織りなす美しさに夢中になった。水彩画を練習するうちに絵をテーマにしている作品が気になり、大好きな猫が出てくるこちらの映画を観ることにした。

主人公であるルイス・ウェイン（ベネディクト・カンバーバッチ）は六人兄妹の長男として生まれた。幼い頃は口唇裂の見た目でいじめに遭い、傷ついた心を癒すように草花などの観察に没頭していった。

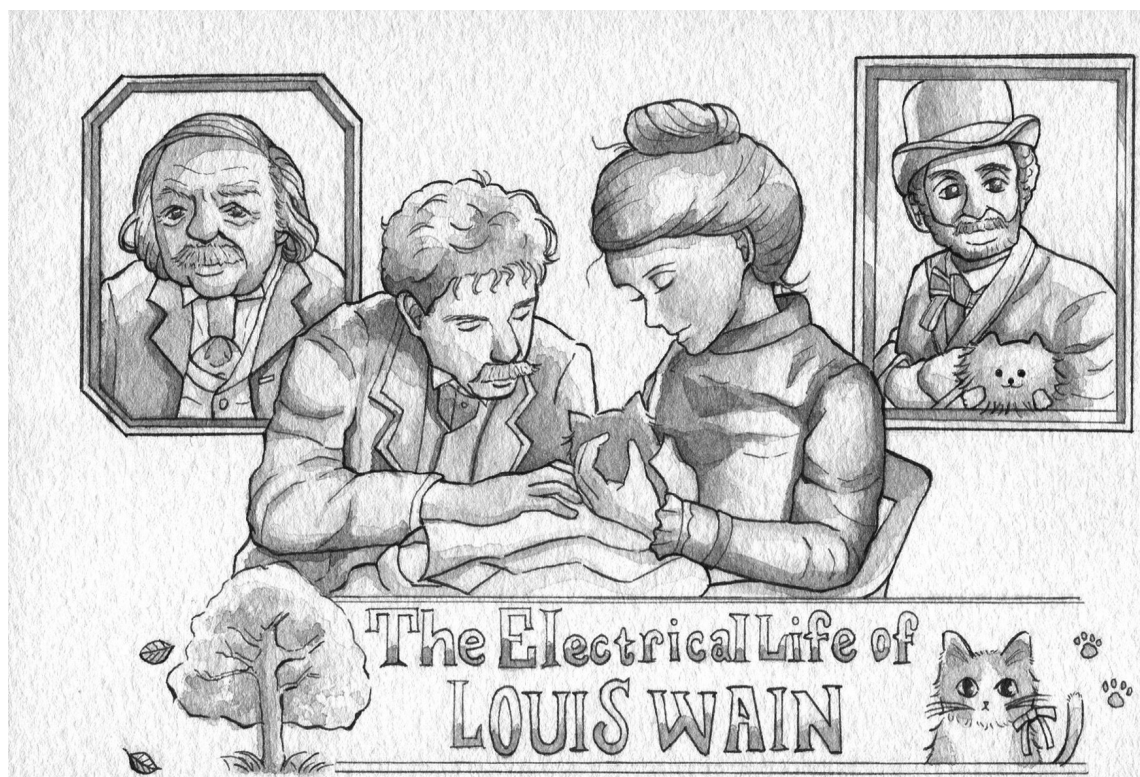
二十歳のときには父親が他界し、若くして五人の妹と母の家計を支えなければならなかった。作曲や発明など多趣味なルイスであったが、なかでも絵の表現が秀でており、その才能を活かして絵を描く仕事に心血を注いでいた。

仕事を終えたルイスは、列車で移動する際も暇さえあればスケッチをしていた。その列車に同乗していたダン・ライダー（アディール・アクタル）から声を掛けられ、家族へのお見舞いに胸に抱いているクレオパトラ（ボメラニアン）を描いて欲しいと頼まれた。人は描かないが犬ならタダで描きますよと、すらすらと可愛らしい絵が出来上がる。ダンは描かれた絵を見て、嬉しそうに笑みを浮かべた。ルイスが絵を描く際ののめり込み具合は凄まじく、農業ショーでは牛を目前で見たいがために危険を顧みずに近づく。その熱心さは他人からみれば奇行に映り、イラストレイテッド・ロンドン・ニュー

ス社の契約主であるウィリアム・イングラム卿（トビー・ジョーンズ）からも「君にイラストを頼むたび、バカげた騒ぎが起きるようだ。君の絵が良くなければとづくに縁を切った」と注意を受ける。没頭するあまり周りが見えなくなるからこそ、見えてくる世界がある。

そんなルイスは少し癖のある五人の妹と、家庭に関心を持たず自分本位に過ごす母と暮らしている。長女であるキャロライン（アンドレア・ライズボロー）も、母の代わりに家事や妹たちの面倒に追われ心に余裕がない。ルイスが帰宅して早々、キャロラインは金銭の話ばかり。外で働いてきたルイスにとって心休まる空間がなかった。妹たちのために家庭教師であるエミリー・リチャードソン（クレア・フォイ）を雇ったこともあり、お金の心配事は増えるばかり。けれど、このエミリーとの出逢いがルイスにとって希望の光となる。

家庭教師として一つ屋根の下で暮らすなか、ルイスとエミリーは次第に惹かれ合っていく。色恋に縁遠かったルイスは、妹たちの学びのためにという口実で『テンペスト』という劇にエミリーを誘った。劇と一緒に観ている最中に、幼少期から見続けている悪夢と内容がリンクしてしまい、ルイスは息苦しくなり席を立つてしまう。繰り返して見る悪夢とは、浸水し始めた船の客室に閉じ込められ、子供姿のルイスはパニックに陥る。迫り来る死への恐怖に助けを叫ぶが、誰の耳にも届かない。割れた窓から勢いよく水が流れ込み、溺れ跳き苦しみながら目が覚める。これは実際に起きたことというより、心の苦しさが夢となって現れているのかもしれない。エミリーはただならぬ様子にすぐ気づき、ルイスの心に潜む影にもそっと寄り添う。不快な思いをさせたらと、口唇裂や恐怖を描いたおぞましい絵を気にしていたルイス。エミリー



ーにとつては些細なことであり、そのような部分も含めルイスの全てを愛していた。想い合う二人は家族の反対を押し切り、身分や年齢差にも囚われず結婚を決めた。二人は新たな家で笑顔の絶えない幸せな日々を過ごしていたが、穏やかな時間はそう長く続かなかった。エミリーは末期の乳癌を患ってしまつたのだ。落ち込む二人はある雨の日、物陰から聞こえてくる鳴き声に耳を澄ました。声を頼りに探しに行くと、そこには愛くるしい仔猫の姿があつた。二人からピーターと名付けられ、不安と悲しみに満ちた日々癒しと笑顔をもたらす。二人はピーターと一緒に自然豊かな木々のなか、四季の移ろいを過ごしていく。そこで見つけた安息の地は、光あふれる絵画のような美しい景色であつた。

ピーターと一緒に暮らすようになってから、ルイスは猫（ピーター）の絵をたくさん描くようになっていった。ピーターとの出逢いを切っ掛けに、猫を擬人化して描くというユーモアあふれるアイデアが浮かんだのだ。ルイスの描く猫と人の絶妙なバランスがとても愛らしく、キャラクターから台

詞が聞こえてくるほど表情や仕草が豊かである。ルイスは癌が進行し病床に伏すエミリーを励まそうと、一部屋が埋まるほどの多彩なピーターの絵を描いた。エミリーは痛みを抱え辛い日々であつたが、ルイスの絵を見た瞬間パッと笑顔が咲いた。魅力的な絵の数々を見て「ウィリアム卿に見せないと」と言う。

後日緊張の面持ちでウィリアム卿に見せにいくと「君は猫の何かを捉えている」と言い、イラストレイテッド・ロンドン・ニュースのクリスマス版2ページを猫で埋めて欲しいと依頼される。当時は犬が主流の世の中であり、猫はネズミ捕りをする害獣駆除のような立ち位置であつた。猫をメインに描くというのは、今までにない新しい試みとなつた。紙面いっぱい多種多様な愛らしい猫が描かれ、その絵が広まるとルイスの人氣はうなぎ登りとなつた。魅力的な猫の絵は本やポストカードなど、バラエティ豊かに商品化されていた。夏目漱石『吾輩は猫である』の一文には、当時描かれたルイスの絵を見て執筆したのではないかと憶測されるシーンもあるそうだ。軌道に乗り忙しく過ごすルイス

は、いつも通りエミリーの為に朝ごはんの支度をした。そこには小さな絵も添えられていて、少しでもエミリーを笑顔にしたいという深い愛を感じる。朝食を部屋に運び、一瞬エミリーを捉え視線を逸らす。別室の暖炉に火を付けに行くが、その手が震え言うことを聞かない。いつも通りであろうとするルイスとは裏腹に、いつもと違うエミリーの姿がそこにあったのだらう。意を決し、もう一度エミリーの姿を見て、呆然と立ち尽くすルイスの表情が忘れられない。

エミリー亡き後は再び妹たちと暮らし始め、喪失感を埋めるように猫を描くことに没頭していった。描けば描くほど売れるルイスであったが、一点の問題があった。それは絵をどれだけ描いても本が売れても、暮らしが一向に豊かにならないこと。ルイスはビジネスに疎かったため、著作権対策をせずに絵を描き続け、持続的な収入を得られなかったのである。長きに渡り生活苦が続くため、妹たちからは不満のはけ口にされる。身を粉にして支えようとする兄に対し、他力本願でヒステリックな妹たちには度々苛立ちを覚えてしまった。心がどん底まで落ち、いつぱいい

つばいなとき、矢継ぎ早に言葉で責め立てられると発狂しそうになる。不幸は続くというけれど、長年一緒に過ごしたピーターが旅立ち、妹も病に侵され気の休まらない日々呑まれていく。ビジネスパートナーであり、困窮の際は一家を想い別荘を貸してくれた、あらゆる形で支援をしてくれたウイリアム卿も病に倒れてしまった。そんな日々を反映したかのように、ルイスの心は侵食されていく。悪夢を再び見るようになったり、周囲の人々が猫の顔に見えたり、幻覚のような症状が出始めたのである。身も心も追い詰められたルイスは、正常な判断ができなくなり、妹たちにも手を上げるようになってしまった。家族の手に負えなくなったルイスはケア病院へ入院し、自由な世界から隔絶された生活を送っていた。外の世界を感じられない閉塞的な病棟にいても、ルイスは猫の絵を描き続けていた。

ある日、黙々と絵を描くルイスに声をかける人物がいた。そう、列車の中でポメラニアンを頼ってきたダンであった。久しぶりの再会に二人は会話を交える。ダンから「なぜエミリーは描き続けてほしいと願ったのか」を聞かれ、ルイスは「人助けのため、見せるためだ」と答える。ダンは「私の考えは違います」と言い「あなたに描き続けてほしかったのは、独りにしないため。あなたは絵を描くことで他者とつながるんです。ご自分の一部を与えるが、人々もあなたとつながる。それにあなたが『電気』と表現するもの、エミリーと感じたものを私は『愛』と呼びます。今も存在しています」優しく言葉を紡ぐダンにルイスは涙を流した。

作中でルイスが電気と表現するシーンがいくつか出てくる。人々や自然からあふれるエネルギーであったり、心や肌で感じる雰囲気や感情など、様々な物事を示していると感じた。「嬉しい、楽しい、幸せ」というプラスの感情は人々を輝かせる。その輝きを電気のように感じていたのかもしれない。ルイスを想うダンには支援基金を立ち上げ、人々にあたたかな援助を呼びかけた。全国からのファンや、ラムゼイ・マクドナルド首相、作家のハーバート・ジョージ・ウェルズなど、影響力のある著名人も賛同し、開放的なより良い病院で絵が描けるよう厚遇された。

室内で、ルイスはかつて描いたスケッチブックを開く。すると、そこにはエミリーが着ていた衣服の切れ端が挟まれていた。悪夢によって描かれた恐怖の絵に、そっと寄り添うように「怖くないわ、私はそばにいる」と伝えたかったのかもしれない。その布とエミリーが大事にしていた石、筆記具を抱きしめながら、ルイスは外に散歩へと出かける。庭を自由に歩き回る猫を背に、色づき始めた木々を抜けると、エミリー、ピーターと過ごしたあの愛にあふれた場所が広がっていた。鮮やかな草木に愛らしい花々が咲き、それらが湖に美しく映り込む。あたたかな光に包まれたルイスは、心がほぐれたように穏やかな表情を浮かべる。

つらいことばかりでもがき苦しんでも世界は美しさで満ちてるそれを捉えるのよ見つめて多くの人と分かち合っあなたはプリズム人生の光線を屈折させるかつてのエミリーの言葉がルイスの心に届いたような、優しく美し

いシーンであった。ルイスが苦境に陥る度、そこには希望の光が差し込んだ。ルイスの絵に癒され、心救われた人々とのつながりによって、ルイス自身も救われたのである。映画を観て自身もルイスの作品を知ることができた。このつながりは果てしなく、これからもたくさんの人々の心に刻まれていくのだと思うと、また胸が熱くなった。

写実的な表現から幾何学的な表現まで、多彩な猫を描いてきたルイス。あまりにも大きな絵の変化は精神病理学の教科書でも扱われ、ルイスの精神状態と結びつけて考えられているものも多い。作中には出てこないが、目が赤くつり上がり不安や疑心を感じるような絵もあった。幾何学模様で描かれた万華鏡のような猫を見ると、美しいものからぞっとしてしまうものまで感じ方も様々。デザインは平面かつ左右対称で、刺繍デザインのように緻密な作風となっている。ルイスの父が織物商で刺繍デザイナーであったという情報もあるもので、そのような背景も影響しているのかもしれない。絵のなかには木菟のように見えるものもあり、我が家の愛猫もたまにそのような

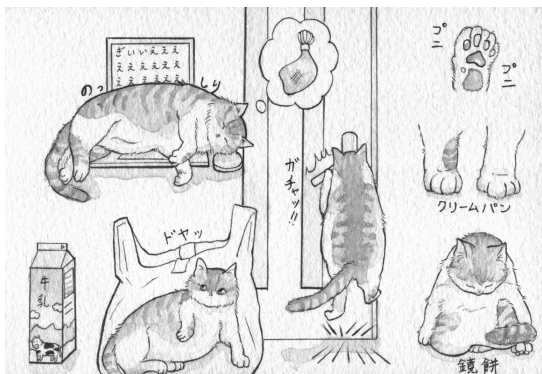
顔をするので、ルイスに見えていた猫の表情のひとつなのかもしれない。形や色彩がどれほど変化しようとも、生涯を通し猫を描き続けていたというのが本場にすごい表現のなかには、猫というより神と考えるような絵もあった。自分の描く猫の絵でマイナス電気をプラスにし、悲しみに満ちた世界を変えられると思っていたルイス。もし猫の存在を神のように感じていたなら、幾何学模様で神秘的な表現をした可能性もあるかもしれない。あらゆる猫の表現を追い求めたルイスの作風であって、病とは関係がないように私は思った。ルイス本人にしか分からないが、

作品に制作日が書かれていないこともあり、絵の変化は今でも研究対象として注目されているそうだ。映画を観終えた後、自身のことを振り返っていた。私事ではあるが、一時期は絵を描こうとしても線すら描けず、何のアイディアも浮かばない日々が怖くて仕方なかった。好きなことが嫌いに思えて、そんな感情を認めたくなくて、絵と真剣に向き合うことからしばらく離れてしまった。1年間に描けた絵は、シネマ気球のイラストと年賀状の2枚という年もあった。

もう描けないのかもしれないと悲観し続けていた間も、いろいろな方の絵を見るのは好きで続けていた。そんな日々が何年も続き、昨年あたりからようやく楽しいと思える瞬間が戻ってきた。誰かを想いながら描いた絵で、相手に喜んでもらえたのが何よりも嬉しかった。その積み重ねのおかげで、少しずつ楽しい気持ちを取り戻せたのかもしれない。毎年シネマ気球で描かせていただけたことも、自身にとっても大きいものであった。どんなに絵が描けなくても、一年に一度は絵と真剣に向き合える時間を作っていただけだ。

好きなことと向き合えない日々はとても辛く、もう二度とそんな感情は抱きたくないと思った。けれど、その間に見聞きした絵や映画、音楽、漫画、アニメ、ゲームなどのインプットが、この瞬間の表現につながっている。無駄なことなんて何一つない、その全てに意味がある。そんなよく聞く言葉が、最近にしてようやく分かった。購入した画材の数々を振り返りながら、よく集めたなあと、その時の熱意に感心するほど、今必要とするものばかりであった。絵を描き続けることでつながれた人々が

いて、その人々に自身は救われている。偶然選んだ作品であったが、今の心境と重なる部分が多々あり、あなたは一人じゃないと言われているような、心に残る一作となった。



『ドッグマン』——神はなぜ犬を遣わしたのか——

久保嘉之

一

冒頭、黒い画面に「不幸な者のいるところ、神はあまねく犬を遣わされる」という、アルフォンス・ド・ラマルティエヌ（処女詩集『瞑想詩集』により抒情詩を復活させ、故にフランス近代抒情詩の祖といわれ、ロマン派を標榜。ヴェルレーヌや象徴派にも大きな影響を与えた詩人）の言葉が白い字で映し出されるが、この映画の主題は、まさしくその言葉に尽きるであろう。脚本も自ら書いたリュック・ベッソン監督は、本編をあたかもその言葉を検証するかのよう

な構成に仕立てたかのごとく、思われる。

ニューヨーク州ニューヨーク。ある雨の夜、警察の検問に引

つ掛かった不審なトラックがあった。運転席には自らも傷付いてはいるものの、そのほとんどが返り血と思われる、血塗れの女性？

がいた。女性はすぐに女装した男性と判明したが、後部荷台のドアを開けると、中には十数匹にも及ぶ犬が奔（ひし）めいており、待ち構えていたように全員？ が飛び出してくると、捕獲する間もなく、雨の夜の底に散り消えた。

不審人物として拘束留置された男の名は、ダグラス（ケイレブ・ランドリー・ジョーンズ）。深夜、尋問に駆り出されたのは、精神科医であるサルマ（グレース・パルマ）という黒人女性であった。早速取り調べを始めるべく、まずは挨拶がてら、

「男か女、どちら側に入れるか迷った同僚が、私に頼んだの」と切り出した。もし女性の側だったら、女性の取調官が適任であろうとの判断であろう。

「仕方がないわ」苦笑を浮かべたダグラスは、金髪のかつらを外しながら、「装うのは大好き。自分がだれか分からない時は、過去を偽り、自分を忘れることができるか

ら」と云い、「装うのは自分をあざむくこと？」と尋ねる。

「見せたくないものを隠すときに使うわ」サルマが答えると、ダグラスは、

「私の場合は別人になるため。自分を忘れるのは楽しい。幻想だと分かっていても……」彼の態度は何のてらいもなく淡々としており、好意的とさえ思えた。尋問が開始される。

「子供はいる？」ダグラスは煙草の煙を噴き上げながら「大勢いるわ」

「犬たちのこと？ 人間よりも犬たちを愛している？」

「人間を知るほどに、犬への愛が深まる。あの子たちの愛に何度も助けられてきた」

「犬の美点は何かしら？」

「美しいけど虚栄心がなく、強く勇敢（ゆうかん）だけど驕（おご）らない。人間の美德はすべて持っている。でもひとつだけ欠点が……」「それは何？」
「人への忠誠心」ダグラスはそう

答えた。犬といえば、主人が命じたことは自らの身を挺してでも果たそうとするという認識なのだが、自分や主人に危害を加えようとするものには、決して容赦がないというのもまた事実である。噛み殺さずんば已まず。たとえ相手が人間であっても、その獠（ろう）猛（もう）さは遺憾なく発揮される。つまり自分を遇してくれるか否かで、人間への対応が変化する、とダグラスは云うのである。

「家族のことを教えて」気を取り直したように、サルマが聞き取りを再開する。

ここからダグラス・マンロウの、悲極（ひき）極まる過去が、語られ始めるのだ……

二

ダグラスが九歳の時である。自宅の玄関前に設（し）えられた犬舎（いぬぐら）の金網越しに、兄が何匹もの犬たちの前で餌をちらつかせ、飢えをあお

るのを、居間の窓から見ていた。父親は、闘犬で生計をたてており、試合が近かった。飢えが最大限になれば、獐猛さもマックスになる。勝つためには必要な事だったのだろう。だがその行為をダグラスは犬たちがかわいそうと思い、またもや餌を与えてしまった。犬に食い物をやるなど、何度云えばわかる」父親はダグラスに暴力を振るった。

「そこまで聞いたサルマは、「お父さんは犬を愛してた？」

ダグラスは首を振り、「愛する心を持たず、暴力がすべての人だった」

「或る日のことである。兄が嬉々として、ダグラスが犬にやる肉をポケットに隠し持っていた、と父に告げた。父の表情が変わった。『そんなに犬が好きか？ 家族よりも？』

「そうだよ」とダグラスが答えた途端、父は彼を追いかけて回して掴まえると、犬小屋の中へ放り込み、「今日からそいつらが家族だ」鍵をかけてしまう。

父のその行為で、母親の辛抱は限界に達した。これ以上の暴力には耐えられない。だが説得に応じようような父親ではない。云えば殴

られるだけである。お腹に三人目を宿してもいた。七ヶ月であった。何個かの缶詰を金網の破れから落とし入れると、「見つからないよう、土の中へ隠しておくのよ」そう言い残すと、家を出て行ってしまったのである。

「お腹の子に、いい人生を与えようとしていたんだ」ダグラスは、ぼつりと呟いた。

……兄が白い横断幕を持って現れた。幕には手書きで黒々と「INTERNET NAME OF GOD (神の御名において)」と記されていた。それを大舎の棧に貼り付けながら、「お前のせいで母さんは逃げた。父さんはカンカンだ。お前は迷える羊。神の御導きがあれば、正しい道に戻れる。祈れ！

『罪の報酬は死だが、神の賜物は永遠の命』信仰に凝り固まった兄らしい、台詞を吐いた。板壁に凭れて、ダグラスは横断幕を眺めていた。彼の場所からは、幕を裏側から見ることになる。つまり滲んだ文字が鏡文字として眼に映ることになるのだが、小屋の柱と梁でその大部分が隠れ、読み取れる部分を繋ぎ合わせると「DOG MAN」となるのである。ダグラスは、「今の自分の境遇に、まさにピッタ

リなネーミング」だと思ったのだろう、唇の端に薄い笑みを泛べる。——当然これはタイトルにおける洒落だと取れるのだが、私には「神の御名において」をひっくり返すと「ドッグマン」という言葉が現われるというのは、ダグラスは悲惨な状況で枯渇した心を、犬たちがもたらしてくれた慰藉で救われたが、同時に犬たちも過酷な環境を彼らの愛で乗り越えられたのではないか、即ち彼は犬たちに遣わされた、〈神〉にも等しい存在ではないのか、とベッソン監督はラマルティーニの言葉に両義的な意味を持たせて、このシーンを撮ったのではないかと、思われた。それこそが、ダグラスが「ドッグマン」たる所以であると。

旬日を経た頃、仔犬が生まれた。ダグラスが可愛がっていると、兄が見つけまた父に云いつけた。父が猟銃を持って駆け付ける。人に愛情を注がれた犬は、闘犬として使いものにならないのだろうか。仔犬を撃ち殺そうというのである。「父さんは世界のすべてを憎んでいた。人生を愛さず、常に破壊する」

「面倒見るから撃たないで！」仔犬の前に立ちはだかり、涙を浮か

べてのダグラスの哀願に、父は「そこをどけ！」怒鳴りながら、暴発気味に発砲する。衝撃で吹き飛ばされたダグラスの左手小指は、無くなっていた。だが悲劇はそれだけに止まらなかつたのである。壁に当って跳ね返った銃弾は、ダグラスの脊髄をも傷つけていたのだ。

しかも医者は皆、銃弾の摘出をためらった。それほど微妙で難しい個所だったのである。

「歩けるの？」サルマの問いに、「少しだけ。緊急時には移動できる。ただ一歩あるくごとに髄液が漏れる危険があるから、歩かない方がいいと云われた。私の歩みは、死に向かう歩み……自由の代償に、神は足を奪った」それから少し考え、「神を信じてるけど、あの時思った、神は私を信じてるのかと」嘆息と共に言葉を吐き出した。

「父は刑期二十年。でも直後に自殺した。檻は嫌だったみたい」犬小屋に自分を閉じ込めた父親への、これはダグラスの当てこすりであろうが、流石に我が子を銃で撃ち取り返しのつかない身体にしてみたってことへの、贖罪ではあつたろう。

「兄は刑期十二年のところ、模範

囚で八年に……

釈放された朝、律儀なポリ（犬の名）が、迎えに行った」ポリは兄の後を尾行けていく間に仲間を呼び集め、一斉に襲撃したのである。

「殺したの？」サルマが、不安そうに尋ねる。ダグラスの境遇に共感を覚え始めていた彼女は、そうあって欲しくないと願ったのだろう。ダグラスは首を振り、

「神は偉大な知恵で、兄を悲惨な状況から救った」そう答えた。

三

だがダグラスの試練は、それだけでは終わらなかったのである。

退院後、彼は養護施設を転々とした。だが何度目かの施設でフランシーヌ（イリス・ブリー）と出会う。彼女は彼の車椅子を気にするふうでもなく、なかば強引に演劇の道へ引きずり込んだ。立っては無理だったので坐った儘の演技であったが、楽しかった。化粧の仕方まで丁寧に教えてくれた。運命の出会いだと感じた。しかしその幸福も長くは続かなかった。彼女がポストン郊外の劇団へ入団するため、施設を去ったのである。失

意は深かった。彼女は劇団でめきめきと頭角を現し始め、やがてブロードウェイへ進出する。新聞に彼女の記事が載るたび、ダグラスは切抜き、分厚いスクラップ・ブックを作った。

ダグラスは十九歳になった。この時彼は、ドッグ・シエルターの管理者としての、職を得ていた。従業員は彼ひとりであったが、却ってその方が気持的に楽だった。大好きな犬たち相手の仕事である。張り合いがあった。励んだ。

だが生活が安定すると、フランシーヌへの思慕は更に深まった。悶々とした日々を過ごし、やがて意を決し勇気を掻き集めると、スクラップ・ブックと花束を携え、会いに行く。彼女は歓迎してくれたが、しかしすでに演出家の夫がいた。しかももうすぐ子供が産まれるという。ダグラスの愛は終わったのである。シエルターへ戻ると、身もだえして号泣する。そんな彼を、犬たちはなす術もなく見守っていた。

五年が過ぎた。或る日突然、州の職員がやってきて、「君の手腕は評価するが、州の赤字がひどく、経費削減の一環としてシエルターを閉鎖することになった」と告げ

た。犬はこちらで引き取り、適当なところへ振り分けるという。

「同情以外を期待するのは間違っていた」ダグラスは吐き捨て、「期限は？」

一週間後の期限当日、職員たちが大挙して押しかけると、シエルターはもぬけの殻で、まさしく犬の子一匹残ってはいなかった。

ダグラスは、廃校となった高校の校舎に、侵入を見張るための改良を幾つか加え、犬たちと共に暮らしていた。だが彼も犬たちも食べなければ生きていけない。そのための職探しは、彼の身体のこともあり、困難を極めた。ひよんなことで彼の歌、それも母がよく聞いていた昔の歌をうたわせると拔群に上手いという才能が認められ、キャバレーの歌手という職にありつくことができたが、それも週に一度だけとあっては、たいした稼ぎにはならない。そこで彼は犬たちを使って、富裕な家から指輪やネックレスなどの高価な貴金属を、盗み出すことにする。犬だと監視カメラに映っても、不審には思われない。順調だった。だがひとりだけ保険会社の調査員が、犯行を見破った。調査を重ね、とうとうダグラスに辿り着く。銃を突き付

け、連行しようとする。そのとき犬たちが襲いかかるのである。

サルマの取り調べで、ダグラスはこの顛末を「犬が密偵を食べた。自然の摂理でしょう」と表現するが、調査員の生死は瞭かにされない。

——事件の発端は、ファンという青年がダグラスの許を、訪れたことによる。ファンは、ダグラスへ洗濯物を届けてくれるクリーニング屋の女主人であるマーサが、とても困っているのを、助けてほしいと頼み込んだ。最近三番街にバーをオープンした、「死刑執行人」と仇名されるエル・ヴェルドウゴが、近隣の店舗からみかじめ料を徴収し始めたという。しかも毎週値上げするので、マーサはもう限界に達していると。親から譲り受けた大事な家具まで売破目に陥つたのだと、云うのである。ダグラスは暫く考え、「マーサに安心するよう伝えて」そう答えた。二匹の犬が活躍する。小型犬が手下の間を縫って食事中だったヴェルドウゴのテーブルに飛び乗り、啜っていた携帯電話を眼の前に落とす。呼び出し音となる。不審がりながら携帯を耳にあてた瞬間、もう一匹の中型犬が彼の股間に咬



「ドッグマン」(リュック・ベッソン監督) グレース・パルマ(左)とケイレブ・ランドリー・ジョーンズ

みつくのである。激烈な痛みに飛び上がりそうになるが、身動きが出来ない。電話は本人かどうか確認した後、「将来子供を作れるようにしてあげるから、マーサにも静かに子育てをさせて」ダグラスの聲が流れる。ヴェルドウゴはとぼけようとするが更に深く咬まれ、否応なく承知させられる。小型犬は携帯を啞えて去り、それを見届けた中型犬も股間から口を離し、アツという間に姿を消した。慌てて手下共を怒鳴り付け後を追わせるが、すでに犬たちの行方は知れなかった。

ヴェルドウゴは約束を守ったように見えた。だがそうではなかったのである。脅しに屈したという悔しさもあったろう。「死刑執行人」の沽券(こけん)に係わると、思ったのかもしれない。ダグラスが「黙示録の天使たちがやって来た」と表現したように、手下を引き連れ、重火器まで用意して、襲撃してきたのである。まずは暴力でここまで案内させたファン青年を、血祭りに上げる。その様子を監視カメラで見っていたダグラスは、

「みんな戦闘準備!」号令と共に配置につく犬軍団と、ヴェルドウゴ一味との壮絶かつユーモラスな

戦闘が展開される。犬たちの奮闘ぶりが、見ものである

—— オープニングで、ダグラスが血塗れだった理由が、この銃撃戦である。

四

「質問は以上よ」サルマが告げた。続けて「力になれることがないか、考えてみるわ」

「これまでに何度も死ぬ思いを味わったわ」ダニエルは嘆息し、すべてを諦めたように「でも仕方ない。私は神の操り人形だから」そう呟いた。

「それは違う。人生にはどうにもならないことが多いけど、大事なのは自分自身よ。悲しむか、絶望するか、闘うか、笑い飛ばすか、決めるのはあなた、あなた次第よ……自由意志も神が創ったの」サルマは励ます意味を込めたものか、強い口調でそう云った。

「あなたの云う通り、人生を決めるのは自分」だがダグラスは、サルマの激励を、違った意味で、しっかりと受け止めていた。「神の許へ行くのは、高い対価が必要かも……」この時覚悟は決まったのである。

ダグラスが、神の御許へ赴く覚悟を決めたのは、なぜだろう。自分の信仰とは裏腹に自分を信じてはいないかもしれない神へ、抗議するためだったのか。それとも絶望のどん底にまで突き落としながらも、僅かな憐憫をもって遣わした犬たちの無償の慰藉で、辛うじて生き抜くことができたという、ささやかな感謝を述べるためだったのか。……おそらくだが彼は、神と面と向かい合い、本当の意志を確かめたかったのではあるまいか。

サルマが拘置所を出て去るのを見届けると、見張っていた犬が遠吠えをあげ、合図した。するとあちこちに散らばっていた犬たちが、

2024年下半年 おすすめ映画

「#スージー・サーチ」(ソフィ・カークマン)

スリラー。誘拐された同級生を女学生探偵が救出するが…。

「ハロルド・フライのまさかの旅立ち」(ヘティ・マクドナルド)

主演ジム・ブロードベント、共

集合し始めたではないか。まず大型の犬が受付の警官を驚かせて気絶させると、瘦せた中型犬が鍵を奪い取り、ダグラスの房のドア下から差し入れた。髭を剃りスーツで正装したダグラスは、両足の補助具を外し、犬が運んだ鍵でドアを開けると廊下へ出た。ゆつくりと覚束ない足取りで歩き出す。一歩ごとに身体が大きく左右に揺れる。大変な作業である。脂汗が流れた。歯が軋む。脊髄から髄液も漏れ出しているだろう。玄関に着くと、待っていた犬たちに「それじゃ、行こうか」声を掛け、再び歩きはじめる。

神は傲慢である。もし死刑になったとしても、それで御許へ辿り

演ペネロプ・ウィルトン。ホスピスから余命いくばくもないとの昔の同僚女性クイニー(リンダ・バセツ)から手紙をもらった主人公ハロルド・フライ。返信の手紙を投函するつもりが、直接彼女に手紙を届けようとイギリスを縦断する徒歩の旅に出る。

「ある一生」(ハンス・シュタインビッヒラー)

孤児が養い親のもと、DVを受

着けるほど、甘くはあるまい。それにそれまでの間、狭い獄舎に閉じ込められるのは、耐えられそうもない。犬小屋での艱難が思い浮かんだのかもしれない。父親の獄舎での自殺も、脳裡をよぎったことだろう。《死》以上の責め苦が必然なのだ。重い十字架を背負われ、ゴルゴダの丘へ一歩一歩あるいたイエス・キリストの辛苦を味わわなければ、神は決して姿を現してはくれまい。これこそが高い対価なのだ。

時あたかも夜明けであった。日が昇りはじめている。拘置所前の広場を挟んだ向かいにある教会の、尖塔とその上の十字架の影が、長くこちらへと延びていた。ダグラ

けながら牧場で働かされる。義兄弟からもいじめられた。青年になり、家を出て賃仕事をしながら見晴らしのよい山小屋で暮らしながらケープルカー建設に従事しながら生計を立てる。妻を娶い幸せな日々をおくるが…。淡々と主人公の一生を追う。

「マンガ家、堀マモル」(榎原有佑、武桜子、野田麗未)

マンガ家をめざす少年と少女。

スはひと足、ひと足と揺らぎながら、渾身の力で死に向かう歩みを進める。……ようやく十字架の影の上に立ったダグラスは、

「見て！ あなたののために自分の足で立っている。こうして立っている！」悲痛な声で叫ぶと、思い極めたように「準備はできてる。いつでもいい」そう呟き、十字架の影の真上に、仰向けに倒れる。犬たちが彼を取り囲むように集まり、みんな伏せた。尚も何十匹もの犬が集まり続け、もはや動かなくなり十字架と化したダグラスへ、額ずくように、伏せ続ける――あたかも十字架で磔にされたキリストに、人々がひれ伏したが如く。

(二〇二四年 十二月)

少年は長じて新人賞を得てマンガ家に。ただすぐスランプに。自分を描いていないという編集者のアドバイスをもとに自分の来し方を描く。三篇のマンガは編集者にも認められ、その作品群が実写で描かれていく。

「ボストン1947」(カン・ジェギユ)

「シユリ」「ブラザーフッド」の監督。主演ハ・ジョンウ。戦後

の韓国、戦争中は統治する日本の日の丸を背負ってオリンピックに出場、金、銅メダルを獲得。民族の誇りは踏みにじられたままだ。戦後2年、ボストンマラソンに出場することになるが、今度は米国の統治下であり、韓国国旗をつけて走ることができない…。

「エイリアン ロムルス」(フェデ・アルバレス)

エイリアンのおもしろさはこれだ。ヒロインはケイリー・スピーニー。ヒロインと新たなアンドロイドは、エイリアンどもと対決する。

「ASIDE アシッド」(ジユスト・フリッポ)

パニック・サスペンス。人をも溶かす酸性雨がフランスを襲う。父娘、別れた妻が逃げる。父は仮釈放中の身(足首に位置情報を知らせる機器を装着)。絶望的。

「侍タイムスリップ」(安田淳一)

有名な俳優は出ていないが、話が面白ければ、映画を作る情熱があればいい映画ができる。ヒロイン役の沙倉ゆうのがいい。主演の山口馬木也ほかもいい味を出して

いる。幕末の侍(会津藩士)が勤王方の侍と斬り合っているさなか雷が落ちて現在の時代劇の撮影所にタイムスリップ。映画の斬られ役として生きていく…。

「シサム」(中尾浩之)

異色時代劇。幕末の北海道。人とアイヌとの交易を巡るトラブルに青年(寛一郎)が巻き込まれる。和人(松前藩)は、アイヌを見下し有利に交易を進めようとする。それに反発する一部のアイヌは武器(弓)をとる。松前藩は銃でアイヌに襲いかかる…。

「あの人が消えた」(水野格)

ミステリー・サスペンス。コメディミステリーなのかと思いきや…。人が消えるマンション。怪しい住人。公安によるテロリスト探し。

「Cloud クラウド」(黒沢清)

クライムアクション。転売屋(菅田将暉)をめぐる犯罪劇。廃工場を舞台に繰り広げられる銃撃戦。和製西部劇の趣。

「憐みの3章」(ヨルゴス・ランテイモス)

3話からなる映画。変な話。1

65分。人を支配し殺人までさせようとする男(ウィレム・デフォー)と支配されてしまう男(ジェシー・プレモンス)。海に不時着して無事帰還した妻(エマ・ストーン)を何か違うと疑う男(ジェシー・プレモンス)。3話目は、人を生き返らせることができる双子を追う男(ジェシー・プレモンス)と女(エマ・ストーン)。

「シビル・ウォー アメリカ最後の日」(アレックス・ガーランド)

キルステン・ダンスト、ケイリー・スピーニー共演。内戦を取材するジャーナリストの一行が、ホワイトハウスに向かう。得体の知れない殺戮の現場に立ち会う。最後はホワイトハウスでの銃撃戦。戦争アクション。ベテランと新米の女性カメラマン。

「悪魔と夜ふかし」(コリン&キャリアン・ケインズ)

オーストラリア映画。ホラー・サスペンス。デビッド・ダストマルチャン主演。テレビショー。司会者とディレクターは視聴率を稼いで番組を存続させたい。ゲストは、悪魔の存在を信じる女性と悪魔が乗り移るといふ少女、悪魔祓

いにはトリックがあると信じて疑わない評論家が登場。

「花嫁はどこへ？」(キラン・ラオ) インド映画。花嫁を取り違えて起こる騒動。

「二つの季節しかない村」(ヌリ・ビルゲ・ジェイラン)

トルコ映画。198分。トルコの田舎の小学校で教師を務める男。クラスの子生徒に翻弄される。

「八犬伝」(曾利文彦)

山田風太郎原作。2時間半。馬琴と葛飾北斎らの「実」の場面と、八犬伝の「虚」の場面が交互に展開される。

「トラップ」(M・ナイト・シヤマラン)

連続殺人気がコンサート会場に紛れ込んでいるとの情報を得て、警察は警戒態勢で犯人拘束をめざす。手練れのプロファイラーが現場を指揮。物語は犯人を主人公に展開する。

「アイミタガイ」(草野翔吾)

女性カメラマンと結婚式場で働く女性(黒木華)。カメラマンが交

通事故で死ぬ。彼女の家族、黒木の彼氏や祖母らが縁のように結びついていく。草笛光子、風吹ジュン、田口トモロヲ、西田尚美。

「映画 〇月〇日、区長になる女。」

(ペアンヌマキ)

ドキュメント。2022年杉並区長選挙に立った岸本聡子が草の根の住民運動を展開するグループの支援を受けて勝利するまでを描く。

「グラディエーターII 英雄を呼ぶ声」(リドリ・スコット)

スペクタクル。海から押し寄せるローマ軍を迎え撃つ戦争、コロシアムでの剣闘士同士の戦い、コロシアムの造型、群衆、見せる。迫力がある。

「アングリースクワッド 公務員と七人の詐欺師」(上田慎一郎)

脱税10億の実業家(小澤征悦)から金を盗む。税務署の役人(内野聖陽)と詐欺師が手を組んで実業家に一泡吹かせる。

「ザ・バイクライダーズ」(ジェフ・ニコルズ)

オースティン・バトラー、トム

・ハーディ、ジョディー・カマー。アメリカの暴走族の話。

「ホワイトバード はじまりのワンダー」(マーク・フォースター)

アメリカ映画。終戦末期のフランス。ユダヤ人少女(アリエラ・グレイザー)を足の悪い少年(オーランド・シュワート)一家がドイツ軍から匿う…。

「grace グレース」(イリヤ・ポポロツキー)

ロシア映画。ロシアの田舎の荒涼とした風景。移動映画館を営みながら車で移動する生活をおくる父娘。徹底したリアリズムで展開する。

「お坊さまと鉄砲」(パオ・チョニン・ドルジ)

ブータン映画。初めて選挙が行われる2011年。政府は人々に選挙の方法を教えていた。ある村で僧侶が弟子に銃を2丁調達するように言い付ける…。監督の前作は、「ブータン 山の教室」。

「型破りな教室」(クリストファー・ザラ)

殺人が身近で起こる貧困なメキ

シコの小学校。学力テストの成績が悪い。型破りな先生(エウヘニオ・デルベス)がやってくる…。実話。

「クレイヴン・ザ・ハンター」(J・C・チャンドラー)

ライオンに襲われ死んだ人間がある薬によって生き返り超人的な力を得て悪を滅ぼす。彼(アーロン・テイラー・ジョンソン)には腹違いの弟がおり、父親(ラッセル・クロウ)は組織のボスだった…。

2025年上半期 おすすめ映画

「ピーキーバー」(デビッド・エア)

無敵の男。勸善懲惡。復讐の物語。ジェイソン・ステイサムは養蜂家として静かに暮らしているが、親しくしている黒人の老婦人がネット詐欺にあつて自殺したことから詐欺集団を抹殺していく。

「サンセット・サンライズ」(岸善幸)

原作〓楡周平、脚本〓宮藤官九郎。東北大地震のあった9年後、

コロナがはやり始めた頃の宮城。リモートワークするために家を借りにきたサラリーマン(菅田将暉)と役場の女子職員(漁師の嫁。井上真央)、漁師(中村雅俊)、町の飲み屋に集う人たちの物語。震災で夫や子供達を亡くした女性の再生の物語。

「どうすればよかったか?」(藤野智明)

統合失調症の姉と彼女を精神科から遠ざけて家に監禁状態にしておいた両親に弟がカメラを向けた20年の記録。両親は医学関係の研究者。姉は弟思いのいい人だったが、医大に進んだあと常人ではなくなってしまった。訳の分からないことを話し奇声を発する。両親は精神科の友人から問題はないと言われ、以来家に閉じ込めてしまふ。もともと早く精神科にかかっていればよかったのと思わせる。

「ショウタイムセブン」(渡辺一貴)

韓国映画「テロ、ライブ」が原作。ラジオ局のDJ(阿部寛)宛に爆破予告の電話。無視するが実際に電力会社が爆破される。犯人は自首と引き換えに会社社長に謝罪要求を突きつける。

「ロボットドリームズ」(パブロ・ベルヘル)

スペイン・フランス合作のアニメ。台詞なし、音楽と擬音のみ。ニューヨーク、動物の暮らす街。孤独なひとりぐらしの犬はロボットを注文する。そのロボットと仲良くなり海水浴へ。塩水につかたせいで砂浜で動けなくなってしまう。

「セプテンバー5」(ティム・フェールバウム)

1972年ドイツでのオリンピック、イスラエル選手団がイスラム過激派「黒い九月」に人質になり、警官隊との銃撃戦の末、全員死亡してしまう事件をオリンピック中継をしているアメリカのテレビ局ABCの放送室での一部始終を描く。

「ゆきてかへらぬ」(根岸吉太郎)

戦前、中原中也と小林秀雄と女優の長谷川康子の関係を描く。広瀬すずがきれい。今年の主演女優賞候補。セットも最低限つくり、撮影も凝っている。なかなかよい。

「ブルータリスト」(ブラディ・コ

ーベット)

戦後、ハンガリー出身のユダヤ人建築家がアメリカで、富豪の求めに応じてコミュニティ・シティ(教会や図書館が併設された)の設計を依頼される。エイドリアン・ブロディ、フェリシティー・ジョーンズ、ガイ・ピアース。

「名もなき者」(ジェームズ・マンガールド)

ボブ・ディラン(ティモシー・シヤラメ)の半生を描く。二人の女性を愛したが、妻帯する気はなかった。風に転がる石のように生きた。ピート・シーガー(エドワード・ノートン)らに認められた。売れっ子になってから、フォークの祭典でエレキを使って観客からブライニングを浴びた。歓迎する人もいたのだが…。

「アノラ」(ショーン・ベイカー)

エロチック・ダンサーとロシアの富豪のバカ息子の物語。彼らはラスベガスで結婚するが、富豪の両親は二人を引き離そうと屈強な男達を二人の元につかわす。

「ロングレッグス」(オズグッド・パーキンス)

サイコ・サスペンス。シリアル・キラーもの。マイカ・モンロー主演。ニコラス・ケイジ共演。連続一家皆殺し事件。女性FBI捜査官が事件を追う。

「悪い夏」(城定秀夫)

生活保護担当の役所の担当者がヤクザの罠にはまり、不正受給の片棒をかつぐことになる。北村匠海、河合優実、竹原ピストル、窪田正孝。

「教皇選挙」(エドワード・ベルガール)

ローマ法王が死んで、次の法王を選ぶ選挙コンクラーベ。なかなか決まらない。候補者を追い落とそうする者、脛に持つ疵を暴かれて選挙からの撤退を求められる者。最後に選ばれたのは…。レイフ・ファインズ主演。

「ミッキー17」(ボン・ジュノ)

SF。死んでも自分のコピーが作れる時代。地球外の星で人間が暮らしていくためには、人間を実験材料にする必要が生じる。未知のウイルスに犯されたとき死を賭して血清などを開発しなければならぬ。ミッキーは16回死んで、

今は17人目。氷の表面が割れ、地底に落下。本部は死んだものとみなして、17人目のミッキーを作ってしまう。ミッキーが2人に…。

「Flow」(ギンツ・ジルバロデイス)

アニメ。森が洪水に襲われ黒ネコをはじめ動物たちは船に乗って生き延びようといっしょにくらす。

「プロフェッショナル」(ロバート・ローレンツ)

殺し屋とテロリストの闘い。1970年代、北アイルランドで紛争中の頃の話。監督は「マークスマン」「人生の特等席」を撮っている。

「アマチュア」(ジェームズ・ホーズ)

CIAの暗号解析班の主人公(ラミ・マレック)。妻がテロリストに殺され、殺人課に志願。復讐のためヨーロッパに向かう。主人公は人を撃てない。

「シンシン」(グレッグ・クウェダー)

刑務所での演劇プログラムの話。囚人同士の友情の物語。

「愛を耕すひと」(ニコライ・アーセル)

デンマーク・ドイツ・スウェーデン合作。マッツ・ミケルセン主演。18世紀のデンマーク。主人公が荒地を開墾。地元の領主が邪魔をする。

「リー・ミラー 彼女の瞳が映す世界」(エレン・クラス)

イギリス映画。実在の戦時中の女性報道写真家。ケイト・ウインスレット。1977年の現在、インタビュを受ける形でかつての戦地の状況を話す。フランス、イギリスでモデルなどをして奔放な

生活をしていた。フランスの友人がレジスタンスに身を投じていった、そんな時代。女性が戦場で写真撮るのは難しかったが、戦地へ赴く許可を得る。写真を撮りた

い一心。事実を報道したかった。名誉は関係なく。野戦病院、戦後フランスで同胞によって髪を切られる親独派の女性、アウシュビッツの列車に残された死体、収容所の死体や生き残り、ドイツ兵に犯されそれがトラウマとなりおびえる少女。ヴォーグ誌に写真を送るが、残酷すぎるとの理由で掲載されず。終戦時、ヒトラーの邸宅のバスルームで裸になってバスタブ

再登場(左遷されて30年。アラスカでイヌイットと結婚)。ジム・フェルプス(1作目で組織を裏切る)の息子というの出てくる。

女性大統領(元CIA長官)の信頼を一身に集めるイーサン・ハント(トム・クルーズ)。シリーズもここに到って大統領の信任を得ることになる。これまでイーサン・ハントをはじめ作戦に携わるIMFという組織は謀略によって反政府組織と見做されていた。シリーズの特徴は、メンバーが元々皆正義のために奮闘している

にうずくまりヒトラーの写真とともに自分を撮らせる。戦争が終わったことを象徴させる写真として有名になった。一子を設けた。その息子がインタビュする形で過去・現在が描かれる。

「サブスタンス」(コラリー・ファルジャ)

イギリス・フランス合作。デミ・ムーア主演、マーガレット・クアリー共演。美貌、肉体的にも落ち目の女優が若返りの特効薬を注射すると、背中から若い自分が出てくる。2人は点滴をしながら7日ごとに交互に生活をしなければ

というテレビシリーズの構図を壊しリーダーであるジム・フェルプスの裏切りから始まり、IMFの信頼が損なわれながら悪を倒していくという話を展開した。話を複雑にし意外性を狙ったのだろう。監督にはアクションの名手を次々に起用した。ブライアン・デ・パルマ、ジョン・ウー、J・J・エイブラムス。4作目「ゴースト・プロトコル」から起用されたクリストファー・マッカーシー(「ユージュアル・サスペクツ」の脚本家でもある)がとくにいい。同作

ならないが、若い方がその規則を破ることによって本体の老化が進んでしまう――。

「国宝」(李相日)

歌舞伎役者の子供と血はつながないが部屋子として育てられた子供(ヤクザの子)が切磋琢磨して成長していく。名跡を継ぐのは実子が順当なのだが、芸に優れているとして部屋子が継ぐことになるなど、二人とも波乱万丈な人生を送る。吉沢亮、横浜流星。

(紅 次郎)

のタイトルで本編の断片を次々に見せる方法はテレビシリーズへのオマージュであり、本編の期待感を高めた。

さらに、イーサン・ハントを含めたチームによる作戦が強化された。ドバイの高層ビルを使って敵を欺く作戦でテレビシリーズの面白さを取り戻した。

変装もこの映画の楽しみ。5作目「ローグ・ネイション」で、MI6の長官がなんとイーサン・ハントの変装であったとわかる瞬間は特によかった。

(T・S)

「ミッシェン…インポッシブルファイナル・デコニング」(クリストファー・マッカーシー)

シリーズ8作目。トム・クルーズのアクションは見る。複製機上のアクションは、スクリーン・プロセスなども使っているのだから、どのように撮影したのだろうかと興味は尽きない。今回は前回の続編。AIの暴走(核ミサイルによる最終戦争)を止めるという話。物語に新鮮味はないが楽しめた。1作目で天井から忍び込むシーンに登場したCIA研究員が

田舎の映画生活 7

岩館 範子

スーパー跡にミニシアターがあるなんて。茨城県那珂市瓜連のミニシアター「瓜連あまや座」は、閉店したスーパーの駐車場跡に2017年に開館した。こだわりの社会派作品などを上映し、各地から映画ファンが集まる場となっている。

1スクリーン31席。支配人の大内靖さんが多様な価値観に触れてほしいという思いで厳選した作品を、月に10種類ほど上映している。ラインアップは多種多様で、ハリウッド映画やアカデミー賞ノミネート作品、国内外のドキュメンタリーやアニメ、時にはホラーも上映している。

あまや座は、閉店した店舗跡を活用できないかという住民の声から生まれた。開設資金はクラウドファンディングで確保。店舗を改装する構想だったが、消防法などに合致せず、駐車場跡に新築した。コロナウィルス禍では来場者数の激減で休館したが、常連客や映画関係者などの励ましで乗り越え、県内や福島県、栃木県などから年間約1万人が訪れている。

閉店したスーパーなんてどこにもある。田舎は土地はたくさんあるから、こんな映画館がもっとあつたらいいのに。自分で作るべしかな。

日本はすごいところ。パート2というところかな。

ガル・ガドットの場合

日本に救われた。『ワンダー・ウーマン(2017)』の主演女優。成功を収めたものの、イスラエル出身という理由で中国やアメリカの一部から激しい批判を受け、精神的に追い詰められていた。

イスラエルでは18歳以上の国民に兵役が義務付けられており、彼女も例外ではなかった。国防軍に入隊して2年間兵役へ。その後モ

デル業へ。2004年にはミス・イスラエルに選ばれた。その後女優業へ。出身国がイスラエルであることを理由に、たびたび批判の対象となつてしまった。C国では、「彼女は戦争犯罪に関与している。イスラエル人だから政治的に偏っている。」という根拠のない主張が広まった。するとアメリカでも政治的立場について議論されることが増えた。平和を願うと言っただけで炎上の火種になつてしまう。一部のSNSユーザーによる執拗な攻撃は彼女のメンタルにも大きな影響を与えた。

C国人のインタビュでは政治的な質問ばかり。映画の質問ではなく政治的な立場を試すようなものばかり。日本人記者とのインタビュは同じかという予想とは違うものだった。まず「長いインタビュ、お疲れではないですか？少しリラクセスしてから始めましょう。」おどろいた。落ちつく時間を与えてくれた。始まったも映画の話題を中心に役者としての仕事に敬意を払ってくれてるようなものだった。それで緊張を解き、心から楽しんでいった。自然と笑顔になり、撮影秘話や、役に対する思いを熱く語った。終わって

からなぜ政治的な質問をしなかったのか聞くと、「私たちはあなたの映画を楽しみにしているファンのために取材をしています。政治ではなく、あなたの作品の魅力を伝えたいのです。」という答え。それを聞いた時、心に暖かいものが広がった。女優としてみてもらい、日本に対する印象が大きく変わった。それで日本に興味を持つようになった。遠い1つの国だったのに。日本人の礼儀正しさや思いやりにおどろかされ、いろいろ調べ、相手を尊重する文化だとわかり、武道、武士道にも興味でた。「外部の声に左右されず自分の信念を貫くことが大切なのだ」と再認識した。それから日本の映画や文学にも触れ、日本文化への理解が深まった。

ジェイソン・ステイサムの場合

世界的な権威あるウイスキーの品評会「ワールド・ウイスキー・アワード2023」で、日本から「竹鶴・ピュアモルト」、「イチロースモルト&グリーン、ブレンデット、ジャパニーズウイスキー」、「新潟カメダ・ニューボット・ピーテッド」の3銘柄が世界最高賞を受賞。2024にも「白河19

58”が世界最高賞を受賞。これを何かの間違いだろうと一蹴したのが、ジェイソン・ステイサム。「日本のウイスキーが世界最高峰だど？笑わせるなよ。本物の酒はビールとウォッカだけだ。」という発言をしてSNSで拡散され、ウイスキーファンの怒りを買うことに。

来日した際、「俺の人生で一番の過ちは、日本のウイスキーを知らずに批判したことだった。」と言っている。それまで勧められても口にすることはなかった。マネー

ージャーが目の前でテイステイングして「なんて複雑な味わいなんだ。」とつぶやいた。それでものまず次の日になってから「マネージャーがあんなに夢中になるなんて…。一体何が特別なんだ？って気になって仕方なかったのさ。」と思いつくことに。「ステイサム、君はこれまで人生の半分損してきたよ。ウォッカにはない複雑さ」と深みがある。特に白州、山崎、竹鶴、響、知多は絶対に試すべきだ。」と言われ妙に好奇心が刺激されたという。

まず白州を手にとった瞬間表情が変わる。香りをかいただけで複雑な香りに思わず目を見開いた。

スモーキーでワイルドなのに、繊細さも感じた。「ビールやウォッカにはない奥行きがあった。シンブルに見えて複雑な味がしたよ。」

山崎は歴史はまだただけど、こはく色をしていて、強い香り、重厚でリッチなほちみつのような甘さにおどろいた。もっと渋さがあると思つた」などと目をキラキラさせて語り、気に入ってしまった。もう1つある。日本酒との出会い。

「なんて不思議なのもものなんだ！」びんに入ってるのを見て、「ウォッカボトルのようだが透き通っている。ワインでもウイスキーでもない。」「熱燗をだしても

らい、「温かい水みたいだな」と言い、「なんだこれは！」微かな甘み、そして鼻に抜ける繊細な香り。のみこんだ後に広がる複雑な風味。今まで味わったのものとれとも違う味。「これが米から作られてるとは信じられない。まるで：異なる次元のみのものだ。」と発言。同じお酒を冷やしたものを出した。同じのものを温めたり、冷やしたりするのか不思議そうだったけど口にするのと、「信じられない、まるで別の酒だ！」

温かい酒では感じられなかったさわやかさ、キレのあるのどごし、引き立つ微妙な果実のような香りを感じた。「ウォッカは温めても冷やしてもウォッカだ。日本酒は違う。」「色々ためしたけど、全く異なる個性をもつてことに魅了されていく。「見た目は同じなのに、こんなにも多様な味わいがあるなんて。」「何の料理にでも合うと聞くと、その場で何本か購入して、自宅に送る手配をした。

次の日、日本酒のことで頭がいっぱい。もつとのめるところを探してもらい、無色透明でも中味は天と地ほど違う。「伝統工芸品を見ているようだな。」「という感想だった。自分で注いでのむ、とつくりとおちよこで大喜びだったそう。もちろん購入して帰った。

オランダ・ブルームの場合

世界中のデイズニールランドへ行つてくけど、C国と日本のデイズニールランドの違いは2秒でわかる。C国は「デイズニールランドで感じられるはずの、あの魔法のような雰囲気を感じられなかった。」「パーク内のごみ箱からはごみがあふれ、アトラクションの待機列に並んでる最中も、わずかな隙間も見の

さず割り込んでくる人々がいる。時には押し合いになることもある。

パーク内のあちこちで多くの人々が持参した食べ物を広げ「ここはまるで、ただの公園なのかと目を疑つたよ。」「最もショックだったのは、キャラクターのぬいぐるみを演じるスタッフが、人目につく場所ですらと頭部をはずし、スマホに見入ってる姿を目撃した時だったそう。息子に目撃され、夢の国の魔法が一瞬にして消えてしまった。早々にパークを後にした。

息子はもう2度とデイズニールランドへは行きたくないと言っていたけど、日本のデイズニールランドは違つて知ってるから必死で説得。日本のおもてなしの心を信じていたからだ。そして日本のデイズニールランドは、レストランは予約なしでも快く案内してくれ、丁寧な接客とみた目も味も満足できる料理の数々でもてなしてくれた。ミッキーマウスとの撮影は、1時間待ちだけど、誰一人として割り込もうとする人はいなかった。

日本の魔法は『おもてなし』という言葉に集約される。最も小さな役割を担うスタッフでさえ、まるで自分がショーの主役であるかのように振るまう。清掃員が清掃

用具で地面にミッキーの絵を描いたり、フードコートのスタッフが子供たちに特別な折り紙を作ってプレゼントしたり、そういったことが当たり前のように行われている。

「息子がまた来よう!」と言ってくれたからよかった。東京ディズニーランドは世界一のテーマパーク」と断言するオーランド。

ジョディ・フォスターの場合

彼女は無神論者であることを公言している。合理的な思考を重視する姿勢を示してきた。常に冷静な判断力を持つこと、客観的な視点で物事を見つめる姿勢を貫いてきた。日本の神社で、人生観をゆるがす出来事があった。映画の宣伝で、神社のセットがあったけど最初は首をかしげていた。映画のヒットを祈願するためだった。無神論者だから体験してみるだけと言っていたけど、神頼みをやってみた。それからおもしろいかもと思ひ、神社仏閣に興味を持つようになった。

日本独特の精神性に関心を示すようになり、YouTubeで見つけた上色見熊野座神社という深い森に囲まれた神秘的な佇まい、

苔むした石段、風にゆれる木々を見て神秘的で恐怖すら感じたと言。スケジュールを調整しマネージャーと2人で訪れた。映像とは違う風を感じ、日常とは異なる空間に足を踏み入れたような感覚になり、ジョディの中で何かがかわった。その場に立っているだけで全身に不思議な感覚が走ったのだとか。

「これまで私は目に見えないものの存在を全部否定してきたわ。でもこの場所には、何か特別なものがあると思うわ」と語る彼女の目には涙が光っていたそう。

「画面越しでは決して伝わらない空気感があった。理屈では説明できない何かを感じた」と発言。人生観が大きく変わったという。その後「本当に神様がいるのかも知らない。」と告白し、みんなに驚かされている。

×

×

×

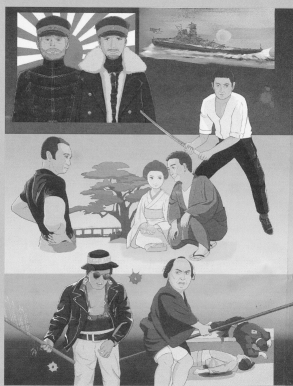
若き日の映画への熱狂

わが菊地浅次郎、私もあなたのようになりたかった

若き日の映画への熱狂

わが菊地浅次郎、私もあなたのようになりたかった

鈴木輝夫



鈴木輝夫・著

東映任侠映画を愛した筆者が、40年にわたり書き綴った、熱情溢るる映画論考! 団塊の世代として、映画とともに自分を社会を日本をみつめてきた筆者は何を見つけたのか――。

本書でとりあげた映画、人物――『血槍富士』『戦艦大和』『二百三高地』『不毛地帯』『続 網走番外地』『明治侠客伝 三代目襲名』『仁義なき戦い 広島死闘篇』『日本暗殺秘録』『平手造酒』『憂国』『11・25 自決の日 三島由紀夫と若者たち』『駅馬車』『風と共に去りぬ』。鶴田浩二、高倉健、千葉真一、中村錦之助、三原葉子、南利明、志村けん、内田吐夢、加藤泰、若松孝二、三島由紀夫、瀬島龍三。

四六判 220 ページ 定価 1980 円(税込み)
ISBN978-4-902387-40-7



ごまめ書房

〒270-0107 千葉県流山市西深井 339-2
TEL04 (7156) 7121 FAX04 (7156) 7122
Email:t-sekita@mua.biglobe.ne.jp
HP:https://www.gomame.co.jp/

筆者の近況

門馬徳行Ⅱ東北のとある街から離れた一軒家で、老夫婦に育てられていた少年時代。当時はおやつなどなく、学校帰り腹を空かせた小学生はおにぎりに味噌をからめて食べていた。そんな日常の中、と

つぜん、親戚の叔父さんがレストランで「チキンライス」を、食べさせてくれた。そのころの自分にとっては、外食などは人生の一大事。世の中に、こんな美味しいものがあるのか！と、感極まった。美食、飽食気味の昨今だが、あの味に勝るものはいまだになく、大切に忘れられない思い出のひとつになっている。

堀江広子Ⅱ夫に、今度生まれ変わったとしたらどんな人生を生きたいと思うと尋ねたら、二度と生まれ変わりたいと言います。多感な時や若い頃に良い思い出が余りなく辛いばかりだったと。慰めようがなく、悲しい気持ちになりました。せめて死ぬまでに、私と共に生きてきて少しは良かったと感じて欲しいと思いました。
星文子Ⅱ思いがけず1日検査入院

することになったが、空きベッドがなくて個室にアップグレード？された。一畳半にも満たない空間にトイレとシャワーが備え付けられていて、まるでソウルの安宿にしているような錯覚を覚えた。西病棟だったので夕方富士山のシルエットが見えた。

中田好美ⅡAI生成イラストをあちこちで見掛けるようになった。最近では手の込んだデジタルイラストがAI生成と疑われ、下描きから完成までを動画にして、証拠を見せなければならぬ時代となつてしまった。一般芸能問わず、誰かを晒し者にして総攻撃するSNSの姿に顔を歪めながら、猫の癒し動画を見てほっと心を落ち着かせる今日この頃です。

森田洋一Ⅱ仕事・ボランティアガイド・市民活動で、ほぼ手一杯です。今年も早い時期から酷暑ですし…海・山よりも、夏はエアコンのきいた映画館が一番よい、そんな気がします。あまり考えなくてよい、単純な作品を見に行こうかと…

久保嘉之Ⅱ今年は、去年に輪をかけて、六月から猛暑日が続いています。「今日も暑いね」乗り合います。

タクシーを利用するお爺ちゃん・お婆ちゃんへの挨拶です。もはや口癖となつています。過去三十年を失われた三十年というそうですが、このままでは三十年後には人類は消滅してしまっているかも、そんな予感を覚える暑さです。

関田孝正Ⅱ带状疱疹にかかった。

5月下旬。右のこめかみに水泡ができて潰れてその部分が腫れてきた。とりあえず手当てしたが、右臉も腫れてきた。黴菌が入ったのかと思い、近くの病院へ。応急処置をしてもらい皮膚科の専門医に診てもらった方がよいと言われ、別の病院へ。「带状疱疹です」と言われ、それまで病名を知らなかったの、先生に聞いた。水疱瘡のウイルスが悪さをしており、脊髄炎になり入院して点滴を受けなければならぬこともある、薬を飲んで、来週の早いうちにもう一度きてくださいとのこと。腫れは1週間ほどでひいたが、こめかみのかさぶたが治るまで一月くらいかかった。病名を告げられてからテレビで3人に1人はかかるというCMが目に入るようになった。近所の人からも带状疱疹の話をよく聞くようになった。2〜3年後にワ

クチンを打ったほうがよいとの医師の助言。70歳、75歳、80歳のときには、公費でワクチンを受けられるとのこと。歳を区切るのは政府にもお金がないということだろう。配信でも映画を見るようになって。クリント・イーストウツドの「陪審員2番」を見るためにU-NEXTと契約した。陪審員が犯罪に加担していたという面白いドラマだった。ついでにNetflixも契約した。門馬さんから面白い映画をいくつか教えてもらった。「アドレセンス」(フリップ・バランティーン監督)がとくに面白かった。2025年の英テレビドラマ(4回、1回約1時間)。

少女を刺殺した少年とその家族ら周辺の人々の物語だ。逮捕・弁護士選任・取調べ、警察の捜査、施設でのカウンセラーの診断、家族の様子が4回にわたって描かれる。いずれの回もワンカットで撮影されている。計算し尽くされた構成。ワンカットで撮るのは演技者にとつては演劇の舞台に立っているのと同じ感覚だろう。舞台と違って空間は広がり、観客はカメラの手前から俳優の演技を見ていることになる。みごとに出来た。

聖者と罪人の島で

原題は「In the Land of Saints and Sinners」。1670年代の北アイルランド。イギリスへの帰属を巡って親英派と独立派が争っていた。独立派はIRAと呼ばれてテロでアイルランド政府と戦っていた。そんな時代、裏社会で生きる殺し屋とテロ組織一派との殺し合

い。どちらも罪を背負って生きている。彼らはいずれ罰を受けなければならない。それでもテロ組織には独立するという大義がある。一方殺し屋には大義といえるものがあるのか。社会の悪を葬るという大義があるかもしれない。テロ組織に大義はあっても、一般人を巻き添えにして大義を語る資格があるといえるのか。どちらともいずれば罰を受けることになるのでは…。

物語は、テロ組織4人組が町で犯罪の発覚を恐れて証人を爆殺しようとするが一般人——女と子供3人——をも巻き込んでしまうことから始まる。

プロフェッショナル

主人公の殺し屋フィンバー・マールフィー（リーアム・ニーソン）は、ギャングのボス・ロバート・マキュー（コルム・ミーニー）に頼まれて人殺しを請け負っている。何人も人を殺している。殺す相手は脛に疵をもつ人間らしい。死体を埋める場所は決まっているようだ。森の中に木の苗木とともに埋める。そんな死体の上に植えた木が何本もある。なぜ殺し屋になつたかは、戦争が自分を狂わせたとの台詞で語られるだけだ。第二次大戦中、連合軍とともにナチスと戦ったことが誇りであり、戦争とは言えそこで人を殺したことがトラウマになっているようだ。本職を隠して本の売買をして生活をしていると周囲に思わせている。結婚もしたがすでに配偶者を亡くしている。友達のひとは警官ビンセント（キアラン・ハインズ）だ。離れた場所から空き缶を銃で撃ち落とせるか賭けに興じている。ビンセントは戦争には行かなかった。それが負い目になっている。そんな時代だ。フィンバーは、自宅の家の前に住む婦人から食事に誘わ

れることもある。ふだんは優しい男として通っている。リーアム・ニーソンは、人を殺して生活していることを隠して生きている、どこか寂し気な風情がびつたり合う。フィンバーは石橋の上で魚釣りをする少女に素手で糸をつかむと手を怪我するとハンカチを貸してやる。少女の首筋や腕に痣をみつけ、虐待を疑う。叔父という若い男が少女を虐めているらしい。フィンバーはその若い男を懲らしめようと車のトランクに押し込め、処刑場まで連れてくるが、トランクを開けた瞬間にナイフで切りつけられる。揉み合ったあと、その若い男は何者かに射殺される。その何者かはフィンバーの相棒ケビン（ジャック・グリーソン）、ケビンも殺し屋。フィンバーを慕っているが、金をためてカナダでギターを弾く仕事をするのが夢だ。フィンバーも殺し屋なんかよりその方がよいと思っている。

射殺された若い男は、テロリストのリーダー格デラン・マツキヤン（ケリー・コードン）の弟。弟が行方不明になり、姉のデランは仲間二人と搜索を始める。親戚筋の少女の母親の元へ行き、さらにギャングのボス・マキューにたどり着く。フィンバーもテロリストらの行動に気づく——。

フィンバーは警官のビンセントとの話のなかで、ドストエフスキの「罪と罰」を読むことを奨める。最後にフィンバーはビンセントに別れを告げるときに車の中に「罪と罰」の一冊の本を紙に包んで残していく。

この映画のラストから感じられる哀愁は何か。殺し屋もテロリストも善ではない。善ではない同士の戦いに勝者はあるのか。「罪と罰」のように、罪を犯したものが罰せられるとしたら、どちらも罰せられなければならない。映画の中では、死んだ方は罰を与えられしたが、辛うじて生き残った方にも罰は与えられなければならない。そのことをフィンバーはビンセントに伝えたかったのではないか。

映画は、殺し屋フィンバーとテロリストらとの壮絶な銃撃戦が展開される。正しいものが生き残るのか、滅びる方が悪なのか。そんな単純な構図ではないことだけは確かだ。この戦いにおいて、勝つたものも手放しでは喜ぶわけではない。負けたものも神を信じて負けていくのである。監督ロバート・ロレンツ。

（関田孝正）